

# 磯の香

25周年記念号



東京北斗会



## 東京北斗会創立25周年に想う

東京北斗会会長 佐藤 金也

東京北斗会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

東京北斗会は、令和元年の記念すべき今年創立25周年を迎えました。

平成7年10月7日東京上磯会（当時）として創立総会が御茶ノ水にあるホテル聚楽にて開催されました。相馬会長、郷内副会長、高橋事務局長の体制にてスタートし、当日出席者は100名を超え上磯町からは、海老沢町長、議長など来賓6名の出席を賜り同郷ならではの和やかな雰囲気の中で盛会に終えました。今回25周年を迎えるにあたり、創立された先駆者や歴代の会長、幹事の皆様、そしてご支援いただいた北斗市、市議会、関係団体ならびに会員の皆様に心から厚く感謝を申し上げます。また初代相馬会長から郷内会長、金谷会長と続き、4代目会長として25周年を迎えられたことはあらためて会員の皆様と共に心から喜びたいと思います。

東京上磯会は平成18年大野町と合併し、北斗市が誕生したのに伴い東京上磯会から「東京北斗会」に名称変更を致しました。

現在会員数は170名で毎年10月の総会懇親会以外には観桜会、日帰り旅行、暑気払いなどの行事を実施して、会員相互の交流と親睦を図っております。

今年6月に企画しました屋形船には40名を超える参加者があり同郷の連帯感が強く感じられました。

25年間で思い出深いのは2度のふるさと訪問です。1度目は平成16年10月に創立10周年記念行事としての“ふるさと訪問旅行”です。参加者は70名を超え、幹事の皆様の気遣いは大変なものでした。現地で第10回定時総会を開催し、その後、役場あげての“歓迎の集い”に出席し一同大歓迎を受けました。

このツアー帰京の日、台風の影響でJAL最終便が欠航となり、翌日の便も満席で席を確保が出来ませんでした。仕方がないのでJRにて八戸まで行き、新幹線“はやて”に乗り継いで帰京したのが懐かしく思います。

もうひとつの思い出は、平成28年6月に実施しました“北海道新幹線開業記念ふるさと訪問旅行”です。3月の開業を記念し2泊3日のふるさと訪問で47名の参加者がありました。旅行中は当時の高谷市長はじめ幹部の皆様、関係団体の皆様から熱烈な歓迎接待を受け参加者一同心から感激感謝を致しました。

これからの東京北斗会は、会員の高齢化に伴う会員数の減少歯止め策、新規会員の獲得、会費納入率アップ策、HP充実化など諸問題を抱えており、この対応、改善に知恵を出し合い解決に向けて努力してまいります。また各行事も更に発展させる為にも、ひとつの試みとして周辺のふるさと会と連携した活動を模索することです。

例えば、道南会、木古内会、福島会などと仮称“渡島チーム”を結成して合同でボランティア活動やボーリング大会、野球観戦など連合にて実施し、渡島周辺のふるさと会の輪を広げて行くことです。意外と幼馴染や高校の同期生等の接点もあるかと思しますので連帯交流が図られると思います。

最後になりましたが、上磯会→北斗会発足以来北斗市からは多くのご支援をいただいております。毎年10月総会懇親会には、市長はじめ幹部職員、市議会、関係団体の方々のご出席を賜っております。そして毎回出席者一同には北斗市の名産を手土産に頂戴するなどのご配慮ご好意に対して、心から感謝申し上げます。北斗市の更なる発展を祈念しております。



## 東京北斗会創立25周年を祝して

北斗市長 池田 達雄

東京北斗会が創立25周年の記念すべき年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

貴会は、会員相互の親睦を深め合い、ふるさとの発展に寄与することを目的に、平成7年、旧上磯町出身の皆様により東京上磯会として設立されました。合併後の平成20年からは、旧大野町出身の皆様にも参加を呼び掛け、平成24年には会の名称を東京北斗会と改めるなど、創立から25年の歳月を経た今日では、名実ともに北斗市出身者の心の拠り所として、確固たる基盤が築かれているものと存じます。

この記念すべき節目を迎えるにあたり、歴代会長をはじめ、関係各位のご尽力に対し、深く敬意を表するものでございます。

また、貴会には、市が首都圏で開催している観光プロモーションへの参加や、貴会ホームページへの観光情報掲載など、北海道新幹線の開業効果を持続可能なものとすべく、積極的にご協力いただいていることに、厚く御礼を申し上げます。

さて、少子高齢化の急速な進展や人口減少時代の到来が、全国的に大きな社会問題となる中、本市におきましても、その対策が最大の課題となっております。

今年度は、第2子からの保育園・幼稚園等の無償化を、所得制限を設けた上で、国に先駆け開始しており、出産から育児、幼少期まで切れ目のない施策を展開することで、まずは安心して子育てができる環境づくりに努めているところでございます。

また、移住・定住促進対策としては、首都圏における移住セミナーの開催や、道央圏の学生を対象としたインターンシップなどによる市内福祉施設への就労機会拡大を図るべく、「福祉職人材回帰マッチング事業」の実施など、若年層の転入を促進し、社会動態の均衡を目指しております。

人口減少問題は、一朝一夕で解決できるものではありませんが、「移り住んでみたい」と思えるまちというのは、そこに住んでいる方が「住んでよかった、住み続けたい」と思っていることが原点であり、出発点であると思います。そして、それが魅力となって広がりを見せていく。つまり、人が人を呼ぶ、このような取り組みを着実に進めていく考えでございます。

このほかにも、新函館北斗駅前の賑わい創出や企業誘致の促進、防災体制の確立など、本市が抱える行政課題は多岐にわたっておりますが、貴会をはじめ関係各位のご支援とご協力をいただきながら、令和という新しい時代にふさわしい「躍動する都市、北斗市の創生」を目指して取り組んでまいり所存でございます。

最後に、東京北斗会のますますのご繁栄と会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。



法亀寺のしだれ桜

# 祝 東京北斗会創立25周年

— 永遠の繁栄を —

北斗市議会議長 中井光幸



東京北斗会が、創立25周年の記念すべき節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

東京北斗会は、故郷を同じくする会員相互の交流と親睦を図り、併せて故郷の限りない発展に寄与することを目的として、平成7年2月に創立されました。

創立25周年の記念すべき節目にあたり、今更ながらに「わが故郷」に寄せる想いは、会員の皆様とともに異口同音であります。

本年は統一地方選挙が執行されましたが、当北斗市議会においても改選期を迎え選挙が執行され、第5期北斗市議会が新たなスタートをきったところであります。

去る5月9日に一般選挙後に初めて招集される初議会が行われ、私こと、第5代北斗市議会議長に就任させていただきました。

私にとりましては、身に余る光栄であり、同時にその責任の重大さに身が引き締まる思いがいたしております。

市と議会との関係は、よく車の両輪に例えられますが、いずれかが勝手な動きをしては蛇行してしまいます。このことを肝に銘じ、池田市長とともに北斗市の発展に尽力してまいりたいと存じますので、東京北斗会の皆様方には温かく見守っていただければ幸いと存じます。

今回、記念誌に寄稿するにあたり東京北斗会のホームページを拝見させていただき、日頃の活動の状況を知ることができました。

3月30日の「観桜会」、6月2日の25周年記念行事「屋形船の会」、7月20日の「暑気払い」等々、どの行事の写真やコメントを拝見しても、皆様の楽しそうな笑い声が聞こえてくるような…そんなその場の雰囲気伝わってまいります。

皆様の故郷である北斗市は、ご承知のとおり平成28年3月26日に待望の北海道新幹線が開業し、これを千載一遇の好機と捉え鋭意取り組みをしてきております。

そんな状況の中で本年6月には、サッポロビール株式会社が良質な原料ぶどうの確保と、日本ワイン「グランポレール」のさらなるブランド力向上のため、我が北斗市三ツ石地区に「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」を開園いたしました。

先般、市民や関係者の手によって第一期の苗の植樹が行われ、2020年には最初の収穫を迎える予定で、2022年にはファーストヴィンテージとして世に出る予定と聞いております。

ワインはぶどう産地の風土を映し出すと言われるほど、どんな土地のどのような環境で育ったかで、その味わいに違いが出るとされております。

このことは、人にも言えることで、豊かな自然環境に恵まれ、そこで育ち、そして、何よりも温かい人情味溢れる土地柄の中で育った人というのは、誰からも尊敬の念を抱かれ、豊かな人格を兼ね備えた人であると確信をいたしております。

10月に開催される総会及び懇親会において、そんな東京北斗会の皆様に初めてお会いできることが叶います。

当日は、是非とも旧交を温めてまいりたいと存じます。

むすびにあたりまして、東京北斗会の皆様のますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 東京北斗会創立25周年を祝して

北斗市商工会 会長 宮崎 高志



令和元年、心地よい響きの改元の年に「東京北斗会創立25周年」を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

平成7年、組織の前身である「東京上磯会」が設立され、今日に至るまで北斗市の応援団として様々な活動を繰り広げられております。創立時から、郷土への深い愛情と熱意をもって活動を支えてこられた会員のご努力はもとより、佐藤会長はじめ、歴代役員のご賜物であり深く敬意を表します。

平成28年3月26日、待望の北海道新幹線が開業し、6月には北海道新幹線を利用した「ふるさと訪問」を企画していただき、地元との交流会では大変有意義な時間を過ごさせていただきました。その北海道新幹線は、今年3月のダイヤ改正で東京～新函館北斗間の所要時間が「4時間の壁」を突破しました。鉄道の移動時間が4時間を切ると、飛行機とのシェアが逆転する「4時間の壁」が存在すると言われていたからです。貨物列車と共用する青函トンネル内を140<sup>km/h</sup>から160<sup>km/h</sup>にスピードアップしたことで可能となったわけですが、試験走行では180<sup>km/h</sup>での安全性も確認されており、今後、さらなる高速試験走行が行われる予定で、皆様との時間距離がさらに短縮されることを心待ちにしております。

さて、ふるさと「北斗」の近況についてですが、国内の経済情勢でよく耳にする話題に「都市部と地方の格差」があります。都市部への一極集中で地方が疲弊している。加えて、少子高齢化、人口減少問題など、多くの課題が山積しています。商工会員は、この5年間で133件が退会しました。会員の減少は組織の弱体化に直結することから、会員獲得を優先課題に掲げ、97件の新規会員を獲得できましたが、減少傾向に歯止めがかからない状況が続いております。退会理由の多くは廃業で、それも黒字での廃業です。経営者の高齢化、後継者不在など、様々な要因が挙げられますが、ふるさと「北斗」においても、この格差が如実に表れております。今後、本格的な人口減少社会を迎える中で、地域経済が大きな影響を受けることに疑問の余地はありませんが、会員企業の経営改善、基盤強化、持続的発展を支援する商工会としての責任の重さを感じております。

北斗市においても様々な支援策が講じられており、行政と歩調を合わせた中で、一つひとつこの課題を解決していかねばなりません。10月には消費税率の引き上げも予定されており、その影響も危惧されますが、決して暗い話ばかりではありません。

池田市長のトップセールスによって造園工事が進められていた、サッポロビールのワインぶどう園「グランポレール北海道ヴィンヤード」も5月に植樹式が行われたほか、新函館北斗駅前に建設中のホテルに加え、新たなホテル建設が計画されるなど、さらなる交流人口の拡大が期待されております。また、開業4年目を迎えた北海道新幹線も、利用客の減少はあるものの、在来線時代に比べ、依然、高水準で推移しており、駅周辺整備との相乗効果をビジネスチャンスと捉え、新たな事業展開を考えていかねばなりません。

皆様には、これからも北斗市の強力な応援団としてご活躍いただき、併せて、当商工会に対しまして、ご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、東京北斗会の益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、記念誌発行によせて、お祝いの言葉といたします。

**北斗市商工会**

会 長 宮崎 高志  
副会長 渡辺 翼男 長川 龍

住 所 北斗市飯生3-4-1  
TEL (0138-73-2468  
FAX (0138-73-2474  
<http://hokuto-cc.jp/>

# 東京北斗会 25周年に寄せて

一般社団法人 北斗市観光協会

会長 金澤 賢一



東京北斗会が創立25周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、永年にわたり北斗市発展のためにご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。とりわけ東京都内における北斗市の観光プロモーション活動に対しましては、毎年、大勢の皆さまにご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

私はこの度、本年5月29日の定時総会において理事に選任され、前佐々木会長に代わり会長を務めさせていただくこととなりました。北斗市の観光振興のため、新たな体制で協会運営を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、北斗市観光協会は、平成26年12月の一般社団法人への移行から早くも5年目に突入しました。春には当協会の大きな事業である「北斗桜回廊」事業を開催し、「桜のまち北斗」をPRしているほか、フォトコンテストの開催や観光ガイド養成事業、新たな体験観光の創出などに取り組んでまいります。

また、当協会は北海道新幹線開業以来、新函館北斗駅の北斗市観光交流センター本館・別館を管理・運営する指定管理者として大変重要な役割を担っています。観光案内所の充実をはじめ、アンテナショップ「ほっとマルシェおが〜る」の運営など、今後も北斗市を訪れる皆さまに喜んでもらえるような施設運営を心掛けてまいります。

私たち観光協会は地域の微力な組織ではありますが、北海道新幹線の新函館北斗駅を有する交通の優位性と地域の風土や歴史、文化を生かしながら、市民の皆さまと一丸となって、北斗市の観光振興に努めてまいりたいと存じます。

今後とも、東京北斗会の皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げますとともに、東京北斗会のますますの発展と会員の皆さまのご健勝を祈念申し上げ、創立25周年にあたってのご挨拶とさせていただきます。



松前藩戸切地陣屋桜のトンネル

大野川沿いの桜のトンネル

一般社団法人  
**北斗市観光協会**  
会長 金澤 賢一  
副会長 佐久間 憲一 佐藤 敬憲 他役員一同  
住所 北斗市市連1-1-7  
TEL 0138-77-5011  
FAX 0138-77-5012  
<http://hokutainfo.com>



## 25周年を迎えて

## 東京北斗会 副会長 坂本 東洋志

今年、お蔭様で創立25周年を迎えることができました。私は、第1回総会（1996年）において、役員20名の中の一人に選任されました。茂辺地から現会長の佐藤金也氏と幹事の加藤和子氏も同様に選任され3人は25年間、行動を共にして参りました。

初代会長の相馬正樹氏は、当時「東海大学名誉教授」の肩書でしたが、ざっくばらんな性格で会員の皆様から慕われて、会報「磯の香」の発刊、北海道ふるさと会連合会への加入、第1回ふるさと訪問旅行（1999年）の実施など当会の基盤を作ってくれました。名誉会長を務めておりましたが2004年12月に逝去されました。



2代目会長の郷内繁氏は発足人の一人で、相馬会長の体制の副会長として活躍しておりましたが、2002年に会長に選任されました。同氏は体育会系の背が高く、恰好が良く、見るからにスポーツマンと言う感じで、各種行事を積極的に行いました。10周年の記念行事として、2004年10月の総会を「ふるさと訪問ツアー」で行うことを企画し、約70名の参加者があり上磯で行いました。当会の運営改善、財政の充実などに注力し、更には北海道ふるさと会連合会の理事として各地区のふるさと会との交流を深め今日の基盤を確立してくれました。

3代目会長の金谷忠勝氏は2009年に選任されました。同氏は中学時代から野球をやって体格が良く、お酒も好きで冗談を言って笑わせることが好きなタイプでした。皆様ご存知の歌手三橋美智也の弟で、総会でお兄さんの演歌を美声で披露していました。同会長は上磯町が2006年に北斗市となったことを機会に当会の名称を「東京北斗会」に変えることを決断し2012年の第18回総会で承認を得て実現しました。

現会長の佐藤金也氏は2015年に4代目会長に選任されました。会長は、前記にあるように私と同郷の茂辺地出身の朋友であり一蓮托生の間柄です。発足時からの役員で、当時男性では我々が一番若く、初代会長の下で走り役を務めて来ました。

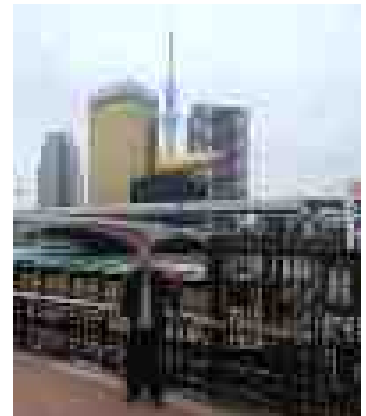
裏話を披露します。「佐藤会長と私は、1994年に会長の会社の女性先輩から道南会に誘われて、初めて参加しました。その参加者の中に初代会長の相馬先生がいて、我々と年齢差が大きいにも拘らず、面白い話題で和やかな雰囲気を作ってくれたことに感激し、先生に上磯会設立の音頭取りをお願いした次第です。先生は、速やかに設立準備に取り掛かり1995年（平成7年）の発会式・第1回総会に漕ぎ着けてくれました。」

佐藤会長は、連合会の理事として会報編集係の活動や会議を行う場所の予約係を約10年間も続けている等、会のためには労を惜しまずに任務を全うして来ました。2015年には、新幹線開業記念の行事として、“ふるさと訪問旅行”を企画し、約50名の参加者があり、北斗市から大歓迎を受けました。目下、役員が一丸となって新入会員の発掘や会員相互の親睦を図るために懇親行事の企画など努力しているところです。

私は、事務局、会計監査、事務局長、副会長の任務を歴代の会長、副会長の下に微力ながら努めることができました。今年の総会は役員改選の時期に当たり、私は退任することに致しました。

この紙面をお借りし、この25年間、会員・役員の皆様、北斗市市長始め役職員の皆様には、ひとかたならぬお世話を賜り深く感謝申し上げる次第です。

当会が次の30周年に向けて、役員の皆様には、現会員数の維持、資金の充実などに努力されて、会員の皆様には、ますますの発展を期すためにも格別なご支援、ご協力をお願い申し上げて挨拶とします。



「屋形船の会」にて

## 25周年を迎えて

## 東京北斗会 副会長 佐藤 則道

創立25周年を迎えた東京北斗会の一員であることを誇りに思います。

今日まで東京北斗会を育てていただいた沢山の諸先輩に敬意と感謝の意を表します。

先輩達は戦前戦中に旧上磯町、大野町に生まれ、敗戦後の物資のない復興時代を生き抜いて、大都会東京に立派な根を下ろした人達です。東京北斗会の幹事として身が引き締まる思いであります。

私も諸先輩と同様に青函連絡船で東京に来て早や50年「光陰矢の如し」です。

サラリーマンから36才で起業し今日に至りました。当時は家内はじめ周囲の諸先輩から無謀だと云われながらも無我夢中で走り続けて来ました。途中バブルの崩壊や、リーマンショック等々の荒波がありましたが、何とか乗り越えられたことに今は感謝しております。

東京北斗会（東京上磯会）とのご縁は丁度還暦の歳に、先輩郷内元会長に誘われて、親友の簡氏と二人で入会しました。いつの時も年中行事を会員の方、幹事の方と仲良く楽しく過ごして参りました。一番の思い出は新幹線開業記念の故郷旅行ですね。市長はじめ役所の皆様には多大な「おもてなし」を受け、感謝の意と共に改めてふるさとの温かさが身にしみました。懐かしい人達との再会、思い出の風景、美味しい磯の味、幸福感でいっぱいでした。

さて、少子高齢化が社会問題化して久しい今日、私のふるさと北斗市も人口減少対策に取り組まれておられます。これからは東京に住んで居る我々も間接的ではありますが行動を興して行きたいと思えます。松田幹事がラクビーの合宿誘致の紹介等をされたことも素晴らしい事と思えます。

また、東京では津軽海峡に面した近隣のふるさと会からも、将来の道南の発展についての交流会のアプローチが来ています。そのためには市役所はじめ、商工会、観光協会とも密接な情報交換をお願い致したいと考えています。

写真は平成27年9月北斗市社会福祉協議会よりいただいた感謝状です。（写真左は佐藤金也會長、右は私です）

最後になりますが、北斗市役所には会の発足以来今日まで大変お世話になっております。重ねて御礼申し上げます。

今後においては、会員相互の親睦を深めると共に、故郷との交流発展に尽くして参りたいと思えます。



北斗市社会福祉協議会よりいただいた感謝状。写真左は佐藤金也會長、右は佐藤副会長



## 25周年を迎えて

東京北斗会 事務局長 宮崎 里志

25周年を迎えることになりました東京北斗会、これまでの長い間、当会を支えて来られた多くの方々、会員そして北斗市の皆様にご心より感謝を申し上げます。

「平成から令和へ」正に新しい時代の幕開けです。平成は、大震災、異常豪雨等、度重なる大きな災害に見舞われましたが、北斗市そして会にとって一番の明るい話題は何と言っても北海道新幹線の開業でした。多くの会員の皆様と一緒に訪れた「ふるさと」はどこまでも暖かく、我々がいつまでも残して行かなければならない美しい風景が溢れていました。市長はじめ北斗市の皆様には大変お世話になり、改めまして御礼を申し上げます。

令和元年の今年は9月からラグビーワールドカップの開催、来年は待ちに待った東京オリンピック、そして2025年（令和7年）は大阪万博へと国際イベントが続き、令和9年にはリニア新幹線の開業も予定されています。是非とも、この流れに乗り明るい時代となることを願っています。当会は近年、会員の皆様の熟年化そして新入会員の伸び悩みに伴い、会員数は漸減傾向にあります。会として平成の25年を経て令和の新しい歴史を刻むために、会員相互の親睦を深めながら皆様と一緒に盛り上げて行きたいと思っております。

4月に起こった、ノートルダム大聖堂（パリ）の火災を覚えていますでしょうか。昔から日本は木の文化ヨーロッパは石の文化と言われており、西洋の建築物にあんなにもたくさんの木材が使用され、あのような火災に遭うとは全くの想定外でした。そしてさらに驚いたのは、火災後の世界中からの多額な寄付の申し入れです。様々な見方があるようですが、世界遺産と言うだけでなく、建築後850年を超える偉大な歴史建造物に対する、世界中の人々の率直な気持ちの表れだと思っています。

東京北斗会は「ふるさと」のため、「ふるさと」を思い続ける皆様のために、少しでも長く新しい時代に沿った未来志向の会として、次の世代にしっかりとバトンリレーをしなければなりません。そして、大聖堂と比べるわけにはいきませんが、いつか何かの時には多くの会員の皆様が「ふるさと北斗市」へ熱い想いを届けてくれるものと思っています。

会の発展は言うまでもなく一人でも多くの方に参加して頂くことであり、その為には会員の皆様がいつまでも元気であることです。地球温暖化の影響でしょうか、この頃は気温の変化が非常に激しくなっておりますので、体調を崩しませぬようどうぞご自愛ください。

## 25周年を迎えて

東京北斗会 会計 谷杉 栄策

東京北斗会が創立25周年を迎え、大変お目出度く又喜ばしい事と思っております。

私は入会して4年、各行事に参加し始めて3年です。初めて参加した行事は、平成27年の総会懇親会でした。総会の部が終わって懇親会が始まると、あちこちで上磯弁が飛び交い、各テーブルは歓談と笑いの渦で大いに盛り上がっていて、その熱気に溢れた会の雰囲気は圧倒されたのを覚えています。その後も他の行事「観桜会」や「バスツアー」、「暑気払い」等に参加しましたが、どの会に参加しても楽しく、10代まで過ごした古里にいるようでした。

25年という歴史を考えますと、このように充実した会になるまでご尽力されてこられた諸先輩の方々には感謝と畏敬の念で心がいっぱいになります。私もこれから1幹事として会の充実と発展の為に努力しようと思っております。



2019年3月「観桜会」

当会の発足25周年を迎えるに当りこの歴史の中に微力ながらその1ページに参加出来ました事に大きな喜びを感じる次第です。又、発足から今日に至るまで当会の発展と運営にご尽力頂きました幹事役員の皆様には心より感謝申し上げます。私が当会に入会し皆様との出会いから11年経ちました。この間峯朗地区幹事、会計幹事、会計監査の役を仰せつかり不肖な私が今日までこの役目を大過なく務めさせて頂きました事は会員皆様の暖かいご支援とご指導のお蔭とこの機会をお借りして御礼申し上げます。

さて、前回の20周年記念号磯の香に当会の強い縁を感じた事について寄稿させて頂きましたがあれから5年の歳月が流れました。今回も当会の取り持つ縁と言うものを痛切に感じた事について寄稿させて頂きます。

平成28年3月に北海道新幹線開業記念に同年6月24日～26日2泊3日の郷土北斗市への訪問旅行に参加し40数年振りに北斗市(上磯)郷土の地を踏む事が出来ました。私の記憶とするイメージからすっかり変わってしまった上磯駅前の街並みや生まれ育った峯朗の山々の姿には唯々驚き微かに漂った石灰石の香りが私を歓迎してくれた様な気がしました。最初は到着したその日の夕方にアンビックス上磯ゴルフクラブで行われた北斗市主催の歓迎式典・懇親会では峯朗出身の現在も北斗市町会連合会会長としてご活躍中の田畑定男さんと50数年振りにお会いする事が出来ました。峯朗の良き子供時代だった頃の昔話に花が咲き、まさかお会い出来るとは夢にも思っただけにその感慨もひとしおでした。次にこれも「東京北斗会」の強い縁なのでしょう、峯朗小学校時代の恩師池田幸吉先生(平成16年他界)の奥さんが88才と言う高齢にも拘わらず大工川から帰京する当日に峯朗出身の我々に態々新函館北斗駅に会いに来てくれた事には只々驚くばかり何と60数年振りの再会に涙が出る想いでした。この旅行会と一緒に参加された上磯会員の池田均さん(恩師の息子)の計らいだった様です。この2泊3日の旅はこの外にも素晴らしい出会いがありました。中学時代の仲間との古稀祝いを兼ねた同級会や更に当会の副会長佐藤則道氏の妹さん夫婦が宿泊先湯の川ホテルに態々久根別から訪ねて来られ40数年振りの再会にはこれも想定外の事だけに本当に驚きました。

添付の写真は私が峯朗小学校3～4年生の頃と記憶しますが、恩師池田幸吉先生と転校する仲間との送別会、色あせた古いアルバムの中にありましたので懐かしさの余り恥ずかしながら掲載させて頂きました。その峯朗小学校は大正8年(1919)峯朗特訓教授所として開校され同年5月に峯朗小学校と改称されたとの事、現太平洋セメント上磯工場がセメント原料である石灰石の採掘それに伴う輸送業務等の機械化や合理化に伴い峯朗鉦山所の従業員とその家族が峯朗社宅から上磯社宅の方に引っ越し住人が居なくなると同時に昭和36年(1961)42年間の歴史に幕を下ろし上磯町立立谷川小学校へ統合されました。「東京北斗会」の強い縁の糸に繋がれた私の北斗市への訪問旅行はこうして想定外の出会いと一生に残る素晴らしい思い出を作る事が出来ました。最後にこの25周年を節目に人と人との繋がりを大切に「東京北斗会」をこれからも楽しく盛り上げて行きたいと考える次第です。

(峯朗出身)



## 25周年を迎えて

### 東京北斗会 会計 花木 瞳 (旧姓 斎藤)

東京北斗会設立二十五周年を迎えて誠にありがとうございます。会員になって、いつの日にも思う、北斗の方々とご一緒にお祝いできますことを嬉しく思っております。

この夏の暑さは北の方も、最近では温度の高い日々あり、学生の頃とは違う気候で、こちらに来て勤めた頃(25歳)の土曜日の半どん帰り、夕立がザアーと、少し待つと晴れ、晴れた空には虹を見ることがもありました。通勤時間帯に乗れるか、乗っても全車両ではない時の雨の日等は、座っている方は窓を開けると雨が降り、立っている方は少々涼しく、閉めろ、開けろの言い争いが、いまでは考えられない気候変動が、以前に心に残っている言葉が、「こっちは涼しいよ」「早く帰ってこい」「でもこちらの生活が長くなっているよ」「まあいつでもくればいいさ」「待っているよ」こんな嬉しい言葉に「ありがとう」と、今は新幹線で本当にテレビの宣伝のように「行ってきます」「ただいま」と、日帰りの出来るスピードに。でも、やはり風光明媚な地に、学生の頃の二十間坂あたりの町並み、緑色の屋根に白壁の教会、秋色のまっ赤になった蔦の葉が家をおおっている美しさ、そっとよぎるような風が、草原で空をあおぎ雲の流れを追う小さい頃の思い出、懐かしい懐かしい、本当に故郷はもの悲しくも元気にもしてくれる。やはり宿泊したいものですね。私の住んでいる町並みが高層建物等少なく、畑等もあり故郷にも似ているようで、都会よりは少々暑さが違うように思います。三階建位の高さにて、はるか向こうに晴れた日には美しい富士山が見え、夕暮れ時のまばゆい程の茜色の夕焼けが、自然のおりなす美しさに心うばわれる。近頃は、季節感がないようにも思える日々、爽やかな春、秋のこころよい風を身に受けたい。極端すぎる気候に人々も動植物たちも、やはり過ごしやすい気候を願っていると思います。



## 25周年を迎えて

### 東京北斗会 幹事 米田 正彦

東京北斗会25周年おめでとうございます。

私は事務局長として、平成27年10月の総会から平成30年12月まで務めさせて頂きました。

幹事の経験年数が少ない状況で事務局長になったこともあり、在任中は皆様にご迷惑をお掛けしたことが多々あると思います。ここにお詫び申し上げます。

事務局長を辞めた理由は、私事ではありますが、波動エネルギーによる病気治療を行っておりまして、全国各地に出向く事が多くなったため、事務局長を続けることが出来なくなりました。

現在は、大野地区の幹事を継続しております。

大野地区は定例の観桜会・バス旅行や暑気払い等に参加する会員が少ない状況です。理由は会員自身の体調不良や、大野の実家におられるご両親の介護のため行ったり来たりして忙しい等の誰もが身近な問題でした。

そして、大野地区の新規会員の獲得も思うように行かない状況です。何か良い方法がないかお知恵を借りたいと思っています。

今後も、会員の皆様に喜ばれるような会にするために一層努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



## 25周年を迎えて

### 幹事として思うこと 東京北斗会 幹事 長澤 久子 (旧姓 高橋)

会員でいました時には、総会に出席させて頂き谷川地区のテーブルに座っておしゃべりしながら会食し、お土産を持って楽しく帰っておりまして、会長さんはじめ幹事さん達のこまごまとしたご配慮にはあまり気付かずにおりました。

2ヵ月に1度の幹事会は毎回ほとんど全員の出席で開催されております。年間計画に沿ってのさまざまな意見等出されますが、その都度、出席者で話し合いをしてしっかりと確認をとっております。

最近幹事会にて「会員相互の親睦をもっと図りましょう」と提案があり、全員の賛成で年間行事が増えました。会員の皆様も以前に比べて懇親会が随分多くなったなあ、と感じていらっしゃる方もおありかと思えます。これまでも何回かのバス旅行や2回の北斗市への訪問等がありましたが、大勢が参加されて、楽しい思い出を作られた事でしょう。因みに今年でいえば、1月新年会を兼ねてのサッポロビール園でのジンギスカンの会、3月墨田堤の観桜会、6月屋形船での港湾遊覧会、7月新橋ライオンでの暑気払い、9月サッポロビール園でのジンギスカンの会、10月市ヶ谷の私学会館での北斗市役所から市長をはじめとした職員の方々と会員との和気あいあいとしながらも整然と行われる総会、そして12月忘年会と、皆様の親交を願ひまして、予定を組んでおります。ほとんどの行事に参加されている会員さんもいらっしゃる一方、中々足を向けてくださらない方もいらっしゃいますが、心配無用で、どなたもすぐに打ち解けていらっしゃいます。

東京北斗会の行事はどうぞ皆様で遠慮なく参加されて、沢山笑って楽しみをいっぱい増やしましょう。是非お一人でも多くお気軽にお出かけいただきます様、幹事一同心よりお待ちしております。



## 25周年を迎えて

### 東京北斗会 幹事 星川 傑

東京北斗会発足二十五年を迎え、発足から携わってきた諸先輩並びに現会員の皆様に対し故郷の深い思いと継続の情熱に対して敬意を表します。

会員に承認して頂いてからまだ、一年ですが、皆様が温かく手を差し伸べて頂いたことでとても楽しく、かつ有意義な時間を過ごさせて頂いております。

会員にならせて頂いた昨年末、大晦日と元旦の二日間だけですが帰省しました。元旦の朝、雪が降り積り、空気が寒さで張りつめた中、幼稚園の時に通っていた秋葉神社に徒歩で初詣にいきました。

記憶の中の秋葉神社は、広い橋と池があり、夏だとオニヤンマがたくさん飛んでいた。パラダイスでしたが、実際は小さな橋と神社、枯れたような池があるだけでした。

この景色を見た瞬間、年月の無慈悲な経過を感じながらも、幼稚園児として通っていたころの大空や風の匂い、草や沼の匂い、園児の元気な声が走馬灯のように駆け巡りました。

「このような思い、感じ方」が故郷を思う原点になること学びました。今後におきましては、多くの同郷の方との交流を通して、地元並びに東京北斗会の発展に貢献できるよう尽力致します。



## 25周年を迎えて

### 東京北斗会に入会して早4年 東京北斗会 幹事 松田 有司

東京上磯会という故郷の親睦会があるということは久根別の実家のお袋から聞いてはいたが、当時の海老澤町長と親父が友人であったことも知らされてはいたが、入会する機会も果たしてどの様にアプローチすればよいのか知らなかった。入会のチャンスは偶然にも母校の東京支部総会にて4期先輩の米田さんに誘われ入会となった。会は既に東京北斗会と名称変更されていた。

入会して少し驚いたのは会員数が150名を超えていたことと小生が56歳で最年少幹事であったこと。会にも高齢化の波が押し寄せていたこと。翌年に直ぐに母校の後輩に久根別小学校1期生の大島君がおり入会してもらった。4年でいまだ一人しか増やせていない現実を思うと先輩幹事の苦労が理解できた。

しかしながら会は25年間もの間、各自ボランティアで引き継ぎ、その歴史を刻んできたことは、やはり故郷北斗市に愛着があったればこそではないだろうか。

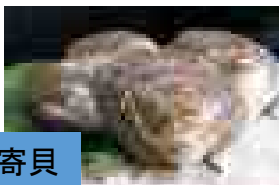
今迄の人生の礎は北斗市にあるということ。

小生は東久根別で生まれ、久根別で20歳まで育った。

夏は久根別の海で毎日のように海水浴を楽しんだ。海には北寄貝、マサ貝、アブラ貝、ウニの仲間であるタコノマクラなど生息していた。大野川でフナ釣り、坊主山でスキーや線路裏の湿地では冬は結氷してスケートもできた。広い野原ではソフトボール、雪中サッカー、かまくらを造ってはおやつを持ち込み友人と遊んだりした。

夏の早朝には魚の移動販売車がやってきて、しわがれた声で「あばたび、ばったばた、かれいのやーりー」と叫んで客集めをしており、お袋はその朝取れイカを買ってはイカ刺しを作ってくれた。イカ刺しは朝食のメニューであった。昨今はイカが温暖化の影響だろうか不漁であり今思えば何たる贅沢な朝食であった。帰省の度にイカ刺しを欲するのは大好物になったためであり、やはり故郷に帰ってきた思いが実に募る食べ物であるからだ。そんなお袋も闘病8年、病床で病と闘っている。2か月～3か月に1度くらいしか見舞いできないが、軽く手足をマッサージしながらお袋の体温を感じているだけでなぜか幸せな自分がそこにいる。

縁あって東京北斗会に入会し、いまだ1名しか会員を増やしていない頼りない幹事ではあるが、サラリーマン生活で培った人脈を活用し、健康寿命を意識しながら少しでも故郷、北斗市の発展のために身の丈にあった活動、情報発信に取り組んでいきたいと決意している。



北寄貝



北寄突き



## 25周年を迎えて

東京北斗会 幹事 龍崎 千遙

25年前、チャンチャン（故・朝倉孝則さん）やジッコ（叔母の松田明美）から「東京上磯会ができる。お前も来い」との連絡。程なくして出欠返送先がオンジョ（幹事の高橋昌三さん）になっている第1回総会の開催案内が届いたのさ。

開催は10月。一年の中で二大双壁と化している業務繁忙期とピッタリ重なっていたのさ。よぐあるフルサト会だべさと類推しつつ、そこはかたなく気になり、お茶の水の会場にフラフラと出向いた。立錐の余地なし。人、人。なまら暑い、たまんねじゃ、ネクタイ外すべかなあ。前記お三方以外に知り合いもなく。やがて前方に人だかり発見。中心は挨拶で登壇した町長の海老澤さん。えっ、母校の大先輩。まさかご参会とは。

恐る恐る「国会ねらいですか」と私。はんかくさいといったそぶりも無く「それもあるかもなあ。けどさ、東京に上磯会だよ。こんな嬉しいことは滅多にない。上磯に住んでいるから余計に嬉しいのさ」と町長。

その後、2回総会、3回総会と出席したような記憶があるものの、開催時期が仕事の2大繁忙期と重なっていたこともあって、足が遠のく。幹事のオンジョさんから毎年、案内が届いていたが、出欠通知を出し忘れたり、会費を納め損なったり。

申し訳ないと思う意識すら薄れた先年、母校の同期会やら何やらで、ちよくちよく顔を合わせる機会が増えた池田喜久雄君から「俺、北斗会の幹事やっているのさ。お前、石別の幹事で入ってくれないか」。青天の霹靂。なしたもんだべ。懐かしくもあり、面倒くさくもあり。んだなあ、確かに以前よりも暇はある、金は別として。

会の目的は『会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限りない発展に寄与する』こと。前者はなかなか、後者はいささか。「鶴瓶の家族に乾杯」が「ブラタモリ」に勝った状況でないべかね。上磯が大野と合併しての北斗だべさ。前者だら大野出身会員の加入促進、後者だら道南から全国さらには世界を眺めた展開。

かつて丸山スキー場と称された修道院の牧草地はサッポロビールのワイナリーに。この先がどうなるんだべか。新幹線八戸駅の姿が新函館北斗駅に重なる。この先、札幌延伸までどうするんだべか。会員に出戻ってはみたものの、うだでぐ悩ましいなあ。なしたもんだべ、おーい北斗星。



丸山を背に膨らむ期待・・・修道院牧草地のブドウ植栽

## 25周年を迎えて

## 行事を振り返って

東京北斗会 事務局

池田 喜久雄

東京北斗会の行事担当として25周年を迎えて今後の行事の行方や過去を振り返ってみたいと思います。

ここ数年での最大の行事は新幹線開通に伴う2016年6月の開通記念北斗市訪問旅行です。48名の方が参加され、「久しく北斗市を訪問してなく、この機会に参加した」「北海道新幹線に乗車してみたい」「以前から北斗市に訪問したかったが、老夫婦だけでつきそいがなく不安であった、団体旅行であれば安心である」等々が皆さんの参加理由でした。泊りなどは自宅、親戚宅、旅館と参加者それぞれで、旅館等は当方で手配しました。この訪問旅行の際には北斗市には歓迎式典等盛大に催して頂き、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



例年行事としては、4月花見、5月日帰りバス旅行、7月納涼会、10月総会、12月忘年会とあり、通年行事で総会除いての参加のべ人数は2017年110人、2018年131名、2019年132名（忘年会除く）と年々増加傾向にあります。正味会員数160人（音信不通者、会費未納者等毎年削除した会員数）としてはまずまずの参加人数と思います。

参加理由のなかで特筆する事として、数年前から5月の日帰り旅行を関東在住の親戚の集まりに活用している方もいます。通常集まりを企画するとなると、予算、場所等いろいろ検討しなければなりません、この行事を集まりの会と決めて、その時期になれば出欠を確認して当方幹事に人数のみ連絡すれば済むので手間いらずなのかなと思います。このような利用の仕方は当方としても大歓迎です。ふるさと会の行事に親戚の方々が集まり懇談する、にぎやかになりますね、ぜひ他の会員の方もご検討をお願いします。

行事関係も概ね1回の参加人数30人がひとつの「壁」と言われますが、それをほぼ超えてきて、更に活性化していかなければと思います。それには周知の徹底です。これを見られた会員の中には、そんなに行事していたのと思われている方も少なくないでしょう。又東京北斗会のホームページには記載していますが、それだけを見て参加しようと思う人は少ないでしょうし、又参加しようと思っても、知り合いが居なければ躊躇すると思われます。その点を裏方として対策を講じていこうと思っております。

又手前味噌な事で恐縮ですが、この幹事会は良く機能していると思います。出席率は良好ですし、各幹事の役分担が明確になっており、個々の幹事はその役割を十分に認識している事です。それもこれも午前中の幹事会後に毎回2～3時間行う飲み会かなと思います。この飲みにケーションが幹事それぞれの役割の確認、問題点の解決、活動の源泉の糸口になっていると感じます。私は他に大学同窓会の幹事もしていますが、ここまで機能してなくこの幹事会を参考にしようと思っております。

北斗市も人口が毎年300人程減少しており、種々対策を講じてます。私共関東在住ですが、何かお手伝いできないかと幹事一同奮闘しております。ふるさとと納税もそうですし、北斗市への移住を検討している方への情報提供などです。

会員の中には関東圏に自宅等所有し、帰省はしても、もう住むことはない方、又もう戻らなくなり、親戚も少なくなったが墓はある方など、ふるさとにいろいろな想いをもちながら関東で生活を営んでいると思います。そのようないろいろな想いを皆さんと語り合える場としての、北斗会にしていきたいと常々考えており、いろいろな行事を企画していきます。又併せて北斗市に東京北斗会として貢献できる事がないかも常に考えております。

今年の25周年の総会にも北斗市の方々が池田市長他来られますので、ふるさとの話をしながら、食べて、飲んで、語って、笑って、最後に「ふるさと」を唱って終わればと思います。楽しみましょう。今後も東京北斗会が何十周年も迎える事ができます様よろしくお願ひします。

## 東京北斗会を振り返って

谷川小出身 廣田 葉子

今から16年前、70歳の秋に札幌から千葉に移住して来ました。主人を亡くして16年、年齢を重ねてからの移住は、見る物、聞く物、食べ物の違い、土地柄の風習など、慣れない環境の中で若い頃のように柔軟になれなく、閉塞感に苛まれた日常を送っていた矢先の事でした。上磯の親友から「東京上磯会に入会したら！」と言われて、当時小泉上磯町議の紹介により入会させて頂く事となり、早10年が過ぎようとしています。

現在に至るまではただひたすら働き、故郷を振り向きもせず、淡々と生きてきた日々ですが、時が過行くのは「あっ」という間で気が付けば同級生は介護施設に入り、又クラス会での写真の中の笑顔がひとり減り、ふたり減り寂しい今日この頃です。そして今想う事は故郷上磯を懐かしく感じる事です。

80数年前の遠い日の記憶の中に、同級生や役場の仲間の面影、耳に残る数々の言葉、ノートのページが一枚一枚めくれる様に次々に当時の匂いや空気感が一緒に漂い、鮮やかに記憶がよみがえってきます。「人の脳は捨てたものじゃないなあ」と改めて感じる次第です。この記憶も東京北斗会の同郷の方々と上磯弁で話すふれあいの場があるからこそ、私の記憶の中の思い出もひとしおの様に思われます。

新年に行われる津田沼札幌ビール園での谷川ジンギスカンの会では、ふるさと北海道の味に舌鼓。春に隅田川のほとりでの花見で桜を仰ぐと、スカイツリーと一緒に目に映る都会でのほろ酔いの幸せ。3年前には北斗市へ新幹線でのふるさと訪問で3日間感動の連続。国会議事堂、スカイツリー、六本木ヒルズ等数々の名所めぐり。北海道にいたらできない経験です。又先日にはかねがね乗りたかった屋形舟でお膳を囲んでの宴は、私にとって別世界であり夢の様な時でした。

この様な思い出作りは貴重な宝物であると共に、皆様と一緒に語り合い、笑い合い、お酒を酌み交わしながらのかけがいのないひと時を過ごさせて頂く事に感謝し、今後も東京北斗会の仲間の方々と時を刻んで行き、明日への生きる活力になっていけばと思う所存です。

齢86歳、東京北斗会と一緒に生きていきます。

令和元年 盛夏



<関東13都府県・群馬> 経営コンサルタント業  
**外山 技術士事務所**  
所長 外山 幸雄  
【東京北斗会常務顧問】  
神奈川県横浜市中区500-8  
tel: 045-4570-3744  
e-mail: yk@otol@gmail.com  
http://www.yk-otol.co.jp/

橋や公共建築物の長命化/ビルや庁舎校舎の耐震長命化!  
海外工、塗り、塗装、塗装、熱をシールドアウト!  
既設工でも下りでも施工可能。100%シロコーン。絶対に強い構造体!  
**ガードペイント**  
認定者 No.115 No. 100003-A / 超耐久高純度シリコーン工法  
**日東通商株式会社**  
〒104-8622 東京都中央区八丁堀4-7-9  
E-mail: jts@nissai-hoquestech.co.jp  
TEL: 03-3250-0050 / FAX: 03-3250-3043



## 東京北斗会25周年を祝う

会員 高橋 牧子 (旧姓 山本)

東京北斗会創立25周年にあたり心からお祝い申し上げます。  
今年は今和元年にもあたり忘れられない25周年のように思います。  
以前上磯に帰った時に、いどこから北斗会の事を聞き、その後参加  
させて頂き、もう何年になるでしょうか！

皆様にお会いしていると、どこからともなく聞こえてくる会話から  
飛び出す上磯弁が、懐かしく感じられる今日この頃です。

故郷に帰ると、いつもホッとする場所が当別のトラピスト正面の  
杉並木、又は清川陣屋に行く時の遠くに見える山々が見える場所や、  
上磯から大野にかけての平野一面の美しさを見るとホッとした気持ち  
になって、帰ってきた気がします。

きっと遠くにいるから感じられる景色かも知れませんね。

今後も元気で北斗会に参加できます事を楽しみにさせていただきます。



## 東京北斗会25周年記念に思う

浜分会員 藤田 幸 (旧姓 佐藤)

東京北斗会創立25周年、誠におめでたく関係者の方々のご尽力に感謝申し上げます。真  
にありがとうございます。

思い起こしますこと25年前、当時、東海大学で教授をなさっておられました相馬正樹様  
のご発案で10名程のお仲間と共に「東京上磯会」を立ち上げたのでございます。そして当  
時の上磯町長海老澤様始め故高谷市長様、池田市長様、市役所の関係部署の皆様、商工会  
会長宮崎様、この故郷の沢山の方々からの大きなお力添えを頂きまして、現在の東京北  
斗会に成長いたしました。又、各地区の幹事様方のご苦労も大変だったと思います。一時は  
200人強もの会員がいらっしやり、遠くは浜松市、静岡市、三重市、山梨市からも上京して  
くださり、嬉しさも格別な感情でお迎えしたことを懐かしく思い出します。そして前々回  
会長の郷内様が「今日は孫や病気の話のを忘れて、田舎言葉での3時間を過ごしましょ  
う」と・・・・・・・・・・。

今、観光地として、そして北の玄関口として北斗市の街並みを懐かしみながら、又どん  
なに離れていても、自慢の故郷です。

諸々の遺跡をそっと見守りながら、  
自慢の故郷を側面から応援してい  
きたいと心より願っております。



故 相馬正樹さん



左から、宮崎商工会会長、海老澤市長、  
郷内会長、水上市議会議長 (当時)

「するってえと何かい？」…「ちょいとお前さん！」…、一生に一度くらい言ってみたいが、まっ、こりゃ無理だ。落語にどっぷりの私だ。噺家は摩訶不思議な世界へと誘ってくれる。くすつと笑い、次に大笑い。ほろりとしたり、時には嗚咽がこみ上げてくる。

こうした頭の中で思い描く世界で遊ぶことを教えてくれたのがF先生だ。音楽、演劇、木版画に精通されていた。（実は専門は理科だと数年前に知ったときは驚いた）

上磯小学校で五年・六年の担任だった。今で言う学級崩壊しかけていたクラスに話し合いを教えてくれた。自主的に早朝の教室で繰り返された学級会は強烈な思い出だ。（やけに早く登校する子供を心配する親からの問い合わせも当時あったらしい）意見の伝え方、聞き方、議事進行の手順はこの時に学んだ。

一丸となって成長したクラスに「お楽しみ」も加わって行った。毎朝の合唱と芝居作りだ。

既存の歌もあったが、F先生が選んだ詩に各自がメロディーを付けて発表する遊びも生まれた。皆、歌うことが大好きで修学旅行では、お世話になった運転手さんとガイドさんにお礼として歌をプレゼントしたものだ。芝居は授業から発展、若しくは脱線したのかも知れない。教室の机と椅子を片付けると広いスペースが出来た。言葉遊びや「通りゃんせ」の動作から芝居を作り上げたりもした。天気の良い日は屋外へと移動した。皆、大喜びだった。……

F先生、あんな事して平気だったんですかね？苦情はありませんでしたか？（笑）

そして、驚くなかれ！クラスは子供の劇団を旗揚げした。創作劇「桃太郎」を引っ提げて、秋葉幼稚園に「上演させて下さい」と売り込む暴挙に出た。子供のやる気、チャンスを見守ってくれる大人が居た。自由な教育の現場が在ったのだ。北斗会の皆さん、昭和三十八年前後生まれの方、幼稚園で妙な芝居を見せられた記憶はありませんか？あの日の6年生はとても真面目だったんですけどね。（笑）

それ以降の私という、中学では生徒会運営で、高校は新聞部で意見を発表していた。大学では現代演劇の先生の指導を仰ぎ、勉強より力を入れたサークルではラジオドラマの制作に没頭していた。今は冒頭で触れたように落語に惹かれている。頻繁に会場に足を運ぶわけにはいかないが、テレビ、ラジオで世界は広がる。両親の次に影響を与えてくれたのはF先生に違いない。

久しぶりにお会いしたF先生はオヤジギャグと駄洒落を連発されて、お元気、お元気。別れ際には「優子ちゃん、気を付けて帰るんだよ」と声をかけて下さった。（そんなあ、あなたこそ!!…とは言えない）私はただただ、感謝するのみ。出会いから長い文通期間を経ての再会だった。

こんな五十年以上に及ぶ出会いから今までを伝えたくてペンを取らせて頂きました。「おあとがよろしいようで」



### 「ここに生き続ける」

久根別パストラル町会 会長 熊本 昇



私は平成10年に定年退職し、ここ久根別に定住して今年22年目を迎えました。妻との話し合いから、旧上磯町久根別4丁目の新興住宅地を選択したのですが、素晴らしい決断だったと満足しています。それにはいくつかの根拠があります。

真っ先に取り上げたいのは、人間関係にやすらぎと夢が持てることです。まわりの人と一緒に何かしてみたいと心を踊らせ、行動することで喜びと勇気が持続的に得られるからです。こんな嬉しいこと、素敵なことはありません。

このことにまつわる街の様子を少し述べてみます。私は名称がパストラル町会という220戸の町内会にお世話になっています。そして、近隣の久根別・東浜地区の10の町会で連絡協議会が組織されています。パストラル町会もその一翼を担っています。

連絡協議会には、2,700戸が所属し、個別の町会の自主的活動を尊重しつつ、10町会がまとまって行ういくつかの意欲的な取り組みをして地域住民の融和と結束を図っています。その一つが「久根別地区文化祭」です。

過去38年間一度も休むことなく、地元の先達が基礎をつくり、発展に努めた地域文化を継承し、さらなる充実を願って続けることを使命として、今年も文化の日を中心とした3日間、39回目となる開催を決めて、準備を始めています。文化祭の企画・運営・実施を通して地域の人が交わりを深め、つながりを濃いものにして、日々の生活が楽しく生きがい豊かな日常になればこんな素晴らしいことはありません。そのために集う人が、この地域にはたくさんいます。

例年、この3日間は会場の久根別住民センターが観る人、演じる人、作る人、飾る人、世話する人、過去を懐かしむ人、未来に想いをはせる人などで埋め尽くされます。

初日と二日目は各町内会の会員さんが取り組まれた作品、地域の自主的サークルの出品、保育園・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒の力作、福祉施設利用者さんの労作、愛好家の菊の花、生け花、押し花、銘石などの展示品が地域の文化を謳歌します。

この二日間は食堂を開設します。10町会女性部の心の通った連携が来場者の笑顔と楽しい会話を作りだしています。こうした女性会員の力は町内会、連絡協議会の基盤をしっかりと支えてくれています。

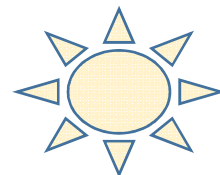
三日目の最終日は芸能発表会。会員さんが日頃鍛えたのど自慢、ひなのよさは会場を魅了。最後はステージと来場者が一体となる輪踊りの熱狂。三日間の延べ入場者は1,200名超。

来年は回を重ねて40回。節目の年になります。

私たちは人と人のつながりを大切にします。人と人の心の通い合いを大切にします。なぜなら、それはもっとも人間らしく、生きる力になると確信するからです。そのための活動の発掘に知恵を出し合います。そして、続けることにこだわります。

ふと、頭をよぎりました。かつて作品を提出した方、舞台に上がった方、裏方として汗を流した方・・・ふるさとを思い出されて・・・いらっしゃるのではと。

すべての皆さまの幸せを願ってピリオドを打ちます。



## 茂辺地地区の現況

北斗市茂辺地在住 中川 正三郎

平成から令和と元号が変わりましたが、茂辺地地区も過疎化が進み、令和元年5月31日現在の世帯数と人口は、茂辺地582世帯・1015人、矢不來13世帯・20人、市の渡21世帯・31人となっており、人口は約30年で半減し、高齢者と単身の世帯が増加し、空き家と空地が目立っている。

茂辺地小・中学校は生徒数の減少により、平成26年4月に中学校を取り壊し、小学校に統合となりました。現在、小学生9名、中学生14名（茂辺地以外から小学生1名、中学生8名が「いさりび鉄道」で通学している）。春の運動会は小・中学校と町内会が合同で行われている。商店は、阿部商店（昔の病院の向側）と一福お菓子店の2店舗となり、生鮮食品などを売っている店がないので不便を感じている。

また、江差・松前線の鉄道が廃止され、「道南いさりび鉄道」という名前に変わり、函館・木古内間を運行している。更に、函館・江差間高規格道路が茂辺地まで開通となり、無料で利用している。

湯ノ沢水辺公園キャンプ場、茂辺地パークゴルフ場が開設され、町内外から多くの人々が来場し利用されている。茂辺地地区の活性化に向けて、上野・札幌を結んだ寝台特急「北斗星」が引退後、2両を茂辺地中学校跡地のグラウンドに移設・設置し、保存され、それに伴い隣に「北斗軒」食堂が開設された。

今年で第38回を迎える「さけまつり」は、毎年11月3日に茂辺地川河川敷に特設会場を設けて、鮭のつかみどり、限定千食のさけ鍋の無料サービス、鮭をはじめとした海産物や農産物の販売などが行われ、町内外から約8千人以上が来場する北斗市を代表する大イベントの一つとなっている。

茂辺地を去ってから30年～50年の歳月が経過し、大都会でご活躍されている皆様に茂辺地の現在の様子をお伝えする機会を得ましたが、何分、不慣れなため上手にまとめることができず申し訳ありません。

会員の皆様のますますのご健勝と東京北斗会のご発展をご祈念申し上げます。



寝台特急「北斗星」

さけまつりの様子

## 「古里を想い」

茂辺地創生会議 会長 宗山 幸夫



東京北斗会が創立25周年を迎え心からお祝いを申し上げます。古里を想い、発展を願いご尽力されてこられたことに対しまして深く敬意を表するものであります。

私は旧上磯町茂辺地で北斗市特産のトマト、きゅうりをつくっている農家です。

また、現在、茂辺地創生会議の会長を命ぜられ三年目になります。過疎化がすすみさらに人口減少の波は顕著なものがあります。ここ茂辺地でも30年前は2千人以上いた人口が現在は1千をきり半減となっています。子育て世代も減り四年前には伝統ある茂辺地中学校が閉校となり、その後小中併置校となっています。一つの建物の中に小学校と中学校があり小学生が9名、中学生が14名その内9名が他の地域から通学する生徒となっています。

そんな中、地方創生の観点から移住定住を促進している北斗市から茂辺地、当別地区の人口減少を食い止め、何とか活性化させよう予算を頂き茂辺地創生会議（事務局北斗市）と言う組織が立ち上がりました。

上磯地区の商工会青年部の有志の方々がクラウドファンディングで資金を集め、地元の理解のもと、数年前まで活躍していた寝台特急北斗星の客車をJR北海道から譲り受け、茂辺地中学校のグラウンドに持ってくることとなりました。グラウンドは北斗星広場と名付けられ、またコンテナを改造した中華食堂（北斗軒）の開設やそのまわりには芝生や花を植え環境を整えました。色々な方々と連携しながら北斗星広場を核に交流人口を増やし茂辺地の魅力を発信し、子育て世代に定住してもらおうのがねらいです。

限られた予算の中での北斗星広場の運営は大変です。食堂の集客も課題で運営にも苦慮しており、現在諸課題の解決にむけ奮闘中です。

今年は北斗星広場で七夕祭りを開催しました。子供達に願い事を短冊に書いてもらい会場内飾り、流しそうめんや射的、かき氷など多彩な催しをおこない大盛況。広場内には星に願いを込めた子供達の声が響きわたり、楽しい一時を過ごしました。

あらためて子ども達の存在がこのまちのパワーの源であることを感じ、また色々な分野の方々と連携して続けて行くことが大切なことであると再認識させられた事業でもありました。

東京北斗会の皆さまも古里を思い負けない気持ちで努力してきて今があると思います。私達も郷土愛を一層持ちこれからも地域と一緒に成長して行きたいと思っております。

また、北斗星広場の運営に関してもお知恵、意見等がありましたらお聞かせいただければ幸甚に存じます。

どうか、皆さまもお体に気をつけ古里の仲間を大切にし郷土の応援団でいてください。

皆さまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げ、地元の近況報告とお祝いの言葉とさせていただきます。



寝台特急北斗星の客車



北斗星広場

## ふるさとだより

### 変わりつつある「ふるさと北斗」

一般社団法人 北斗市観光協会

事務局長 八木橋 直 弘



今年の4月から北斗市より派遣され、北斗市観光協会の事務局長を務めさせていただいています。東京北斗会の皆さまには、今後も観光プロモーションなど、さまざまな事業でお力添えを賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

北斗市は北海道新幹線開業から4年目を迎えました。開業に合わせ、高規格道路の暫定開通や道路拡幅などのインフラ整備なども進み、生活基盤も整備され街並みは大きく変貌しています。新函館北斗駅周辺も徐々にではありますが開発され、来年には新たなホテルの開業も予定されています。

一方で、北斗市には、きじひき高原や松前藩戸切地陣屋跡、トラピスト修道院など、古くからの地域資源として貴重な原風景が残されています。皆さまが北斗市へお帰りになられた時、懐かしいと思えるような観光資源を大切にしながら、新幹線の駅がある街として新たな観光資源の発掘にも取り組みたいと思います。

また、新鮮な魚介類を味わうことのできる「貝鮮焼北斗フィッシャリー」や農産物直売所「あぐりへい屋」のほか、今春にはサッポロビール(株)によるワイン用ブドウ農園「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」も開園し、北斗市のさまざまな食を生かした観光地づくりも期待されています。

さらに、最近の北斗市は、小・中学校の吹奏楽部が連続して全国大会で優秀な成績を収めるなど、子供たちの大活躍で「吹奏楽の街」「音楽の街」としても一躍有名になってきました。毎年、秋には市内の吹奏楽団体で組織する北斗市吹奏楽協議会が主催して、毎週土・日曜日に「オータムコンサート」と銘打った、北斗市を訪れるお客さまを歓迎する演奏会が新函館北斗駅前で開催されています。

古くから残されてきた自然や風景を生かしつつ、新しい取り組みによって変わりつつある北斗市を積極的に発信してまいりますので、東京北斗会の皆さまには、引き続き北斗市のPRをよろしくお願いいたします。

結びになりますが、東京北斗会のますますのご発展と、会員の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ふるさとからの便りとさせていただきます。

追伸：観光協会は、新函館北斗駅に隣接する北斗市観光交流センター別館に事務所があります。北斗市へお帰りの際は、ぜひお立ち寄りください。



トラピスト修道院



きじひき高原 パノラマ展望台

## 会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていただいた会員の近況を紹介します。この会報の印刷の都合上、9月20日到着までの分を掲載しています。

- ★ 「当別に居ますが10月15日に上京し、出席します。楽しみにしています。」  
石別 山川毅
- ★ 「西高の同期会と北斗会総会が重なっています。が、北斗会総会に出席して久しぶりに皆様のお顔を拝見してから西高に参加しようと思うので、出席！」  
石別 矢澤弥生（旧姓：佐藤）
- ★ 「7月に北斗市を訪ね、市長さん始め皆さんとお会いし、修道院の葡萄畑を見てきました。できることから市勢発展に協力します。」  
石別 龍崎千遙
- ★ 「孫5人になりました。元気に生きています。」  
石別 野左近康蔵
- ★ 「（奥様の美智子様から）平成26年5月31日、70才永眠致しました。お世話になりました。」  
石別 小林正孝
- ★ 「今年は涼しい長梅雨から急に酷暑になり、最近はまだ意外に涼しくなって、体調だけでなくトマトの鉢の管理もムズイ。夏はやっぱり三ツ石、PonPon !!」  
石別 松田明美
- ★ 「北斗会創立以来、幹事を務めさせて頂いておりますが、今年で退任させて頂き、裏方より協力したいと思っております。」  
石別 高橋昌三
- ★ 「昨年10月本人死亡。永年の御厚情に心からお礼申し上げます。（奥様から）」  
上磯 小島眞澄
- ★ 「当日楽しみにしております。」  
上磯 星川傑
- ★ 「少し体の調子が悪いですが何とか頑張っ居ります。」  
上磯 佐藤茂雄
- ★ 「今年も夏の暑さに慣れることが出来ません。早く早く秋風が恋しいです。」  
沖川 花木瞳（旧姓：斎藤）
- ★ 「脱会いたします。佐藤さんにはお世話になり、ありがとうございます。今回の会費は振込しました。」  
谷川 日野憲雄
- ★ 「御苦労様です。お世話様です。初めてですが宜しくお願いします。」  
谷川 岩村昌治
- ★ 「体調バッチリ！！ 総会楽しみにして居ります。 ※まゆみさんに宜しく御伝え下さい。」  
谷川 廣田葉子（旧姓：斎藤）
- ★ 「残暑お見舞い申し上げます。総会、楽しみにしております。」  
谷川 永塚津江子（旧姓：石崎）
- ★ 「5月末から函館市に滞在し10月末に帰りますので、北斗会に出席出来ません。宜しくお願い致します。」  
谷川 斎藤清信
- ★ 「何時もありがとうございます。皆さんにお逢いしたいのですが現在病気治療中で通院中です。長い時間椅子に座っているのは無理ですので皆様によるしくお伝え下さいませ。」  
浜分 岡部カツ子（旧姓：佐藤）
- ★ 「伊予、讃岐の歩き遍路第10回10月7日～10月22日 愛媛県～香川県63ヶ寺～69ヶ寺までの歩き遍路のため欠席致します。」  
浜分 細川国勝（旧姓：堀内）
- ★ 「今年は暑さに負けず元気です。」  
浜分 萩森京子（旧姓：小倉）
- ★ 「元気です。自営なので、働いています。」  
茂辺地 佐藤たい子（旧姓：峯尾）

## 会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていただいた会員の近況を紹介します。この会報の印刷の都合上、9月20日到着までの分を掲載しています。

- ★ 「今回で幹事退任を致します。25年間ご支援ありがとうございました。皆様におめにかかるのを楽しみにしております。」 茂辺地 佐藤金也
- ★ 「長い間の役員お疲れ様でした。坂本様のご尽力により、25年間続けて来られたと思います。猛暑、御身体を大切にしてください。私は超元気です。」 茂辺地 山崎弘子(旧姓：池田)
- ★ 「暑さに負けています。待ち遠しいのは“秋”の心境です。金也さん、東洋志さん、和ちゃん、お疲れさまでした。長い間、北斗会、もへじ会の要でいて下さりありがとうございました。」 茂辺地 中田真樹子(旧姓：小野寺)
- ★ 「県外研修のため欠席いたします。」 茂辺地 高橋幸夫
- ★ 「私は今回で幹事を退任します。25年間ありがとうございました。幹事の皆さま総会準備など色々有りますが宜しくお願い致します。」 茂辺地 加藤和子(旧姓：吉田)
- ★ 「妻が病気になりましたが仕事、病院通いに頑張ってます。」 茂辺地 田中正昭
- ★ 「そろそろ“ぼけ”が始まったかな？」 茂辺地 岩谷潤一
- ★ 「東京北斗会が25周年にもなるとは。長い間役員をお引き受けされていて本当にお疲れさまでした。記念すべき今回に出席出来ず申し訳ありません」 茂辺地 高橋冷子(旧姓：佐藤)
- ★ 「依然として寝たきりです・・・治る見込みはありません。皆さんに宜しく。もし治ったら連絡します」 茂辺地 宗山友男
- ★ 「ここまで会を続けることができたのは皆さんのおかげ、本当にお疲れ様でした」 茂辺地 内堀幸夫
- ★ 「残暑厳しい中、役員の皆様ご苦労様です。又皆様と元気にお会いする事を楽しみにしています。」 茂辺地 北林志津江(旧姓：坂本)
- ★ 「ご無沙汰しております。いつも参加出来ず心苦しく思っています。役員を退任とのこと、お疲れさまでした。今回も出席出来ず申し訳ございません。10月はいろんな行事がかさなり、身動きが取れません。今後、11月頃の懇親会にして頂けると助かります。(孫の運動会も重なってます)ゴメンナサイ」 茂辺地 大野洋子(旧姓：佐々木)
- ★ 「元気です。」 上磯 山本善正
- ★ 「毎々大変お世話様です。社会福祉のボランティアやバレーボール、グランドゴルフetcで元気しております。今後ともよろしく。」 上磯 清水目憲司
- ★ 「毎々ご苦労様です。今回は体調不良のため欠席致します。今後ともよろしく。」 上磯 清水目千枝子
- ★ 「残念ながら今回も大阪に滞在しているので欠席します。」 上磯 木幡恒
- ★ 「毎月北斗市の広報誌「ほくと」を市役所から送ってくださること49年間、上磯誌から始まり発展ぶりを伺うことがよ〜く分かります。故郷が元気になっていくことに安心して遠くからも守っております。」 上磯 吉泉幸子(旧姓：柳谷)
- ★ 「今年は25周年記念、皆様とお会い出来る事を楽しみにしています。」 峯朗 簡和弘
- ★ 「東京北斗会を脱会させていただきます。」 石別 高橋宏和



## 会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていただいた会員の近況を紹介します。この会報の印刷の都合上、9月20日到着までの分を掲載しています。

- ★ 「高齢の為、今後の連絡なしにお願いします。今までありがとうございました。東京北斗会を脱会させて下さい。」 石別 高橋昌次
- ★ 「出席予定でしたが、急に体調不良につき残念です。」 石別 市川雅夫
- ★ 「体調があまり良くないので欠席させていただきます。」 浜分 小棚木透
- ★ 「いつもありがとうございます。今年4月から障害者グループホームを始め、大変忙しくしております。今後も出席はできそうにないです。ゴメンナサイ。」  
大野 大塚幸枝（旧姓：舩甚）
- ★ 「ご無沙汰しております。癌を患って以来、体調が思わしくなく欠席させていただきます。いつも広報北斗を送っていただいております。直接お礼を言えないのが残念です。」  
大野 鈴木一弘
- ★ 「東京北斗会第25回総会おめでとうございます。東京北斗会会長はじめ役員のみな様の活動に感謝します。」 峯朗 岩山真一
- ★ 「元気に生きてます。役員様のご苦労大変な事と思います。ありがとうございます。」  
上磯 馬場幸雄
- ★ 「当日は印度出張の日程と重なってしまいました。家族3人元気に過ごしております。」  
久根別 大島大介
- ★ 「高齢と体調不良のため欠席させていただきます。」 沖川 出口正幸
- ★ 「腰の手術をして入院中です。9月10日現在」 茂辺地 高橋昭則
- ★ 「長い間、役員ご苦労様でした」 茂辺地 佐野誠一
- ★ 「25年間の役員活動を漢字一字で表すと「楽」です。本当に楽しかったです。会員の皆様には大変お世話になりありがとうございました。総会でお会いできることを楽しみにしています」  
茂辺地 坂本東洋志
- ★ 「町会の役員のため毎日忙しく過ごしております。古希の集まりで茂辺地の同級生に会って来ます。皆それぞれ変わったと思いますが楽しみです」  
茂辺地 棟方三千子（旧姓：畑中）
- ★ 「幸い病気やケガもせず日々元気に過ごしております。皆様との一時を楽しみに（特に茂辺地の方々）出席させて頂きます」 茂辺地 辻田康治
- ★ 「趣味（詩吟）にはまって片道2時間かけて週3回稽古に。今月は発表会を含めて9日外出。いまだ勉強中です。」 茂辺地 辻田満子（旧姓：中川）
- ★ 「お世話になります。ず〜と！仕事中心の生活です。先日から峯朗の松井さんがバイトに来てくれています。皆で道南の風に吹かれてリフレッシュしましょう。楽しみに待っています。ありがとうございます」 茂辺地 坂井双葉（旧姓：佐藤）
- ★ 「いつもお世話になっております。出席できませんがよろしく願いいたします。ご盛会をお祈り申し上げます。」 上磯 村上千鶴子（旧姓：郷内）
- ★ 「母親の体調が思わしく無く、今回も欠席致します。盛会をお祈り致します。石崎公益社の社長が簡さんによろしくとの事でした。」 峯朗 石川誠一

## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2013年5月 城ヶ島一泊旅行

東京北斗会 会計、加藤和子さんの送別会を兼ねて



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2014年4月 ハワイアンズ一泊旅行  
日本三大桜「三春の滝桜」と海鮮料理を舌鼓む旅



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2015年5月 静岡 日帰りバス旅行

茶摘み衣装で新茶摘み&海鮮浜焼き食べ放題とイチゴ狩り



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2016年6月 ふるさと旅行

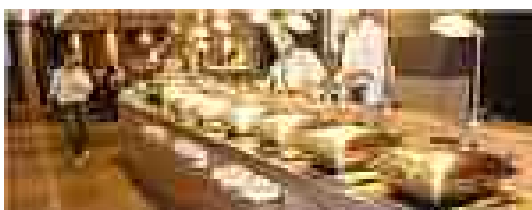
北海道新幹線開業記念 ふるさと訪問旅行



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2017年5月 日帰りバス旅行

薔薇の洋館めぐりと東京スカイツリー



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2018年6月 日帰りバス旅行

品川プリンスホテル人気のブッフェと東京湾クルーズ



## 写真で振り返る 東京北斗会旅行

2019年6月 東京北斗会

25周年記念行事「屋形船」







## 東京北斗会（旧東京上磯会）25年の歩み

年（西暦）	歩み	できごと／今年の漢字	
平成 7 (1995)	東京上磯会発会式／2月、ホテル聚楽136名出席、初代会長・相馬正樹 第1回総会／10月、ホテル聚楽110名出席、以降毎年10月開催	上磯町長・海老澤順三、大野町長・鍵谷宏、阪神・淡路大震災、野茂英雄ドジャース移籍、地下鉄サリン事件、全日空機函館ハイジャック事件、清水寺「今年の漢字」発表開始	震
8 (1996)	第2回総会／日本閣東中野店126名出席、会報「磯の香」創刊	0-157集団食中毒、狂牛病、ポケモン、たまごっち流行、アムラー出現、アトランタ五輪	食
9 (1997)	第3回総会／前年同所87名出席「磯の香」第2号刊行	上磯「かなでーる」完成、ジョホールバルの歓喜、拓銀・山一証券倒産、秋田・北陸新幹線開業	倒
10 (1998)	第4回総会／前年同所84名出席「磯の香」第3号刊行	青函トンネル10周年、和歌山毒カレー事件、冬季長野五輪で道勢金メダル	毒
11 (1999)	第5回総会／前年同所出席数未記録、「磯の香」第4号刊行、発足5周年記念ふるさと訪問旅行(5月)	大野町長・吉田幸二、世紀末、ヤマмба出現、日銀ゼロ金利スタート、西暦2000年問題	末
12 (2000)	第6回総会／レストランキャスル出席数未記録	有珠山噴火、IT革命、シドニー五輪で田村亮子と高橋尚子が金、2千円紙幣、	金
13 (2001)	第7回総会／前年同所60名出席	小泉旋風、Suicaスタート、米国同時多発テロ事件、アフガン侵攻	戦
14 (2002)	第8回総会／前年同所83名出席2代会長・郷内繁	小中高校週5日制、初の日朝首脳会談、拉致被害者5名帰国	帰
15 (2003)	第9回総会／前年同所78名出席	函館江差道函館～上磯間開通、阪神18年ぶりリーグ優勝、自衛隊イラク派遣	虎
16 (2004)	第10回総会／上磯町帰省開催、七重浜レインボー70名出席	新潟中越地震、豪雨災害、オレオレ詐欺、韓流ブーム、アテネ五輪日本メダルラッシュ	災
17 (2005)	第11回総会／レストランパピヨン82名出席、「磯の香」第5号刊行	きじひき高原で第56回北海道植樹祭、愛・地球博、クールビズ、人口減少元年	愛
18 (2006)	第12回総会／レストランキャスル88名出席	北斗市誕生、初代市長・海老澤順三。駒苦甲子園3連覇逃す、日ハム初の日本一	命
19 (2007)	第13回総会／ホテルパシフィック東京92名出席	食品表示偽装、IC運転免許証、松井秀喜日米通算2000安打、日ハムリーグ連覇	偽
20 (2008)	第14回総会／前年同所91名出席	4代目しらせ進水、北京五輪北島康介W金、夏の高温顕著、地球が変だよ温暖化	変



## 東京北斗会（旧東京上磯会）25年の歩み

年（西暦）	歩み	できごと／今年の漢字	
平成 21 (2009)	第15回総会／前年同所81名出席、「磯の香」第6号刊行、3代会長・金谷忠勝	草食系男子、裁判員制度、民主党新政権、オバマ新大統領、日ハムリーグ優勝、イチロー2000本安打	新
22 (2010)	第16回総会／東海大学校友会館96名出席	2代北斗市長・高谷寿峰、小惑星探査機はやぶさ地球に帰還、観測史上最高猛暑、熱中症多発	暑
23 (2011)	第17回総会／アルカディア市ヶ谷79名出席	東日本大震災、なでしこジャパン女子WC優勝、地デジに完全移行	絆
24 (2012)	第18回総会／前年同所75名出席、東京北斗会に改称	茂辺地IC開通、日ハムリーグ優勝、ロンドン五輪日本過去最多メダル	金
25 (2013)	第19回総会／前年同所72名出席	東京五輪招致成功、楽天球団創設以来初の日本一、和食が世界文化遺産に	輪
26 (2014)	第20回総会／前年同所75名出席、「磯の香」第7号刊行	17年ぶり消費税増税、カープ女子・理系女子・土木系女子・こじらせ女子	税
27 (2015)	第21回総会／前年同所70名出席、4代会長・佐藤金也	白鵬歴代最多33回優勝、寝台特急北斗星運行終了、台風23号で北海道被災	安
28 (2016)	第22回総会／前年同所74名出席、新幹線開業記念ふるさと旅行	北海道新幹線開業、リオ五輪日本金メダルラッシュ、米大統領広島へ、日銀マイナス金利	金
29 (2017)	第23回総会／前年同所74名出席	北朝鮮ミサイル発射、藤井聡太四段29連勝、キタサンブラック活躍、日ハム日本一	北
30 (2018)	第24回総会／前年同所78名出席	3代北斗市長・池田達雄、冬季平昌五輪羽生金連覇、胆振東部地震で全道停電	災
令和 元 (2019)	第25回総会／前年同所、「磯の香」第8号刊行	新幹線東京～新函館北斗4時間切る、ラグビーWC日本開催	?

**祝**

東京北斗会25周年(役員一同)

(敬称略・横並び)

池田達雄	高橋昌三
加藤和子	武井美野子
金谷忠勝	谷村宗寛
南 和弘	長瀬久子
小松直樹	花木 隆
堀内 寛	黒川 保
坂本東洋志	松田有司
佐藤金也	宮崎里志
佐藤剛道	米田正彦
熱山幸雄	龍崎千道

＜創立36周年＞総合不動産

## 三蔵住建株式会社

取締役社長 佐藤 剛道

[東京北斗会 副会長]

[北斗市ふるさと報告大使]

東京都新宿区西新宿7-16-14  
ミクラ西新宿ビル4階

TEL 03-3362-2121・FAX 03-3362-2051

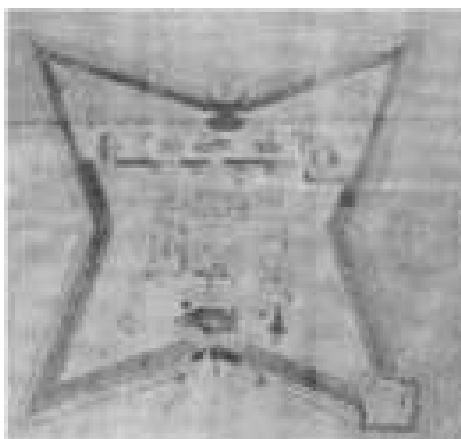


## 上磯のあゆみ。。。。。

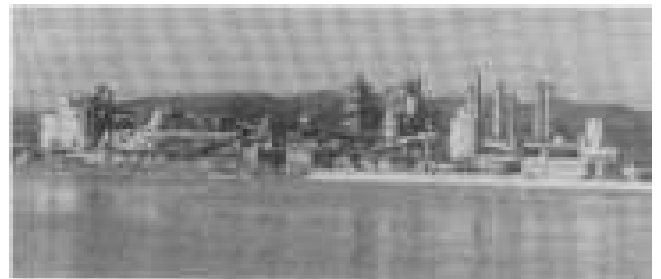
- 建保4年(1216)** この頃安東氏、東北地方の大部分を支配するようになる。
- 嘉吉3年(1443)** 下国安東太郎盛季、南部義政に破れ、海路矢不來に上陸し、茂別館を築く。このころから、蠣崎氏など津軽の豪族がのがれて渡来した。
- 長祿元年(1457)** エゾの酋長コシヤマイン、和人の諸館を攻め落とす。武田信広これと戦い、七重浜付近で倒したと伝えられる。



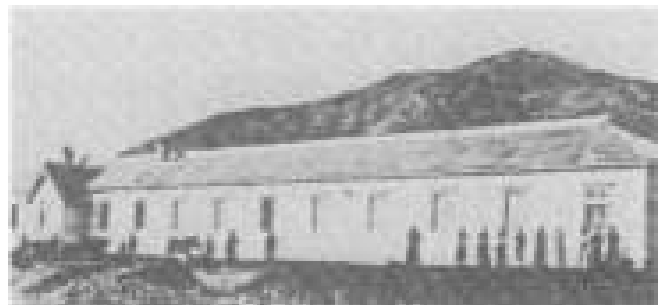
- 天正18年(1590)** 蠣崎慶広、豊臣秀吉から安東氏に代わり蝦夷の支配権を受ける。蠣崎氏は後に松前氏に改姓。
- 文化4年(1807)** 幕府が蝦夷地を直轄地とするが、16年後松前藩へ返還する。
- 安政元年(1854)** 日米和親条約締結。箱館、下田が開港し、幕府直属の箱館奉行が置かれる。
- 安政2年(1855)** 松前藩が戸切地陣屋を築く。



- 明治元年(1868)** 10月20日、幕府脱走軍森町鷺の木に上陸、箱館戦争が始まる。松前藩兵が自ら戸切地陣屋を焼き払い、五稜郭に退去する。
- 明治2年(1869)** 箱館戦争終結。開拓使が置かれ、函館支庁所管となる。蝦夷を北海道と改め、11国86郡を設定。上磯官墳墳墓が創立される。
- 明治12年(1879)** 有川、戸切地村が合併し上磯村に。茂別村でサケの増養殖事業始まる。
- 明治13年(1880)** 上磯村を元村とし、他4か村の戸長役場を置く。茂別村にも戸長役場が置かれる。
- 明治17年(1884)** 種田金十郎が、トックリ窯によるセメント製造を始める。有川正教会(現上磯ハリストス正教会)の会堂が建立される。
- 明治18年(1885)** 葛登支岬灯台創設される。
- 明治23年(1890)** 北海道ゼメントK.K.(現在太平洋セメント(株)上磯工場)が石灰石を採掘し工場を建設。



- 明治29年(1896)** トラピスト修道院創設。



- 明治33年(1900)** 上磯村一級町村に。
- 明治39年(1906)** 茂別村二級町村に。
- 明治42年(1909)** 上磯村に初めての電灯が本町(現在の中央2丁目)に灯る。



## 上磯のあゆみ。。。。。

- 大正元年（1912）** 川田龍吉男爵が当別に「川田農業試験場」を開設。酪農、畑作、林業の技術改良を研究する。
- 大正2年（1913）** 五稜郭・上磯間に鉄道開通。久根別停車場設置。
- 大正7年（1918）** 町制施行、上磯村が上磯町となる。
- 昭和3年（1928）** 川田龍吉男爵が実験栽培に成功した馬鈴薯が優良限定品種「男爵いも」と名付けられる。
- 昭和7年（1932）** 上水道を布設。電話一般に開設。
- 昭和20年（1945）** 茂別村が米軍機の空襲を受ける。民家が破壊され2人が死亡。
- 昭和22年（1947）** 新憲法による初の町長町議会議員選挙。
- 昭和29年（1954）** 解散請求により、町議会解散。台風15号で青函連絡船「洞爺丸」など5船が海難。
- 昭和30年（1955）** 上磯町と茂別村が合併。現在のの上磯町に。
- 昭和42年（1967）** 知的障害者福祉施設「おしま学園」が当別に開園。
- 昭和53年（1978）** 総合体育館完成。
- 昭和56年（1981）** 自治制施行100周年記念式典を挙げる。
- 昭和58年（1983）** 現役場庁舎完成。
- 昭和60年（1985）** テクノポリス函館、上磯工業団地完成、分譲開始。
- 平成2年（1990）** 公共下水道、七重浜地区で一部供用開始。
- 平成3年（1991）** 上磯ダム供用開始。
- 平成5年（1993）** 7月12日夜北海道南西沖地震（M7.8）発生、上磯町は震度4を記録。
- 平成7年（1995）** 現上磯消防署庁舎完成。
- 平成9年（1997）** 上磯町総合文化センター「かなでーる」完成。
- 平成13年（2001）** 上磯町温水プール「かみんぐ」完成。



上磯ダム

\*この記事は平成14年11月16日、「東京上磯会」発行の「磯の香」に掲載されたものをそのまま掲載しました。

総合建設業  
株式会社 **金澤組**  
代表取締役 **金澤 賢一**

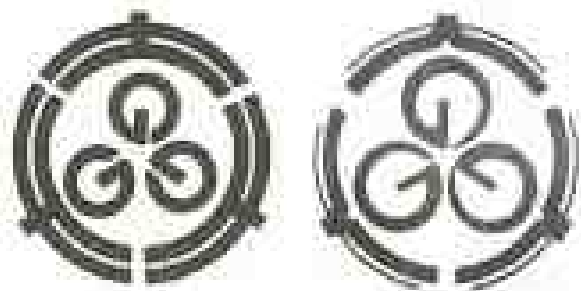
住 所 北見市福留10-6  
TEL 0138-73-3835  
FAX 0138-73-7850

北海道新聞 日本経済新聞  
有限会社 **宮崎新聞販売所**  
代表取締役 **宮崎 浩一**

住 所 北見市福留1-12-1  
TEL 0138-73-2238  
0120-09-2227  
FAX 0138-73-1781

## 大野のあゆみ。。。

- ◆**嘉吉3年(1443)** 15世紀に作られた越前焼のすり鉢が市渡の畑から出土(住民生活があった可能性示す)。
- ◆**寛文9年(1669)** 戸数20戸くらい。
- ◆**貞享2年(1685)** 文月の高田吉右衛門が水田耕作、米作(北海道の水田発祥)。
- ◆**天明5年(1785)** 大野、市渡、文月に集落。
- ◆**寛永11年(1799)** 大野会所設置(今の大野小学校の位置)。
- ◆**文化2年(1805)** 箱館奉行が水田を開墾し、大どめ用水を造営、米作増。白川伊右衛門が大郷寺南側、伊達林右衛門が千代田、川村新左衛門が一本木に農民を集団移住させて水田開墾。
- ◆**文化5年(1808)** 箱館奉行が稲作を中止、その後凶作が続き田がひえ畑に。
- ◆**嘉永3年(1850)** 高田松五郎と万次郎の親子が水田耕作、玄米24石(約3.6トン)を収穫。
- ◆**安政元年(1854)** 千代田の島津家に私塾が開かれていた。安政年間に「大野村絵図」が作成された。
- ◆**明治元年(1868)** 箱館戦争、意富比神社あたりで激戦。
- ◆**明治2年(1869)** 下二股あたりで激戦。長瀨に松本塾、市渡に圓通寺塾、金丸塾、本郷に大郷寺塾、大野に向坂塾などが開かれていた。
- ◆**明治4年(1871)** 大野村に官営養蚕所設置。
- ◆**明治5年(1872)** 私設消防「大組」「の小組」ができた。簡単な手押しポンプを保有。大野郵便取扱所(今の北斗北郵便局)開設。
- ◆**明治8年(1875)** 一本木に三角測量函館検基線西側標石が置かれた。
- ◆**明治9年(1876)** 英国人デニングが本郷に日曜学校を開設。
- ◆**明治11年(1878)** 大野小学校開校。
- ◆**明治13年(1879)** 大野、市渡、本郷、文月、千代田、一本木に戸長役場が置かれた。文月小学校開校。一本木に大野小の分校が開校。
- ◆**明治14年(1881)** 第七公立病院開院。
- ◆**明治15年(1882)** 市渡小学校開校。荻野に竹部塾(後の荻野小学校の母体)ができた。
- ◆**明治17年(1884)** 本郷小学校開校。
- ◆**明治18年(1885)** 一本木と千代田の分校を合わせて島川小学校開校。
- ◆**明治19年(1886)** 江差山道が開通。大野村に巡查駐在所開設。
- ◆**明治22年(1889)** 大野新道が開通。
- ◆**明治23年(1890)** 新川水田開墾。
- ◆**明治28年(1895)** 千代田用水が通水、水田100haを潤す。
- ◆**明治32年(1899)** 文月、市渡、島川の小学校が大野小学校の分校となり、本郷小学校が廃校に。
- ◆**明治33年(1900)** 大野、本郷、文月、市渡、千代田、一本木の6か村が合併、新生大野村に。一級町村指定を受け、初の村会議員選挙実施、16人の議員選出。荻野に大野小の分校が開校。
- ◆**明治34年(1901)** 分校の文月、市渡、島川、荻野が独立して尋常小学校に。大野～函館間に鉄道が開通、本郷駅(今の渡島大野駅)開業。
- ◆**明治40年(1907)** 大野信用組合(今のJAの原型)が発足。トラピスト修道院の牛乳出張所ができた。
- ◆**明治42年(1909)** 北海道庁立渡島農事試験場開設。
- ◆**明治43年(1910)** 公衆電話が開通。大野村教育会設立。
- ◆**明治44年(1911)** 文月小が大野小の分教所に。
- ◆**大正2年(1913)** 明治35年よりも酷い大凶作。
- ◆**大正4年(1915)** 大野村の村章(後の大野町章)決まる。



左・大野町章、右・旧大野村章  
＝大正4年の功労者賞状から

## 大野のあゆみ。。。。。

- ◆大正6年(1917) 大野村に電灯つく。
- ◆大正11年(1922) 村役場の庁舎更新。  
大野川発電所落成。
- ◆大正15年(1926) 中村長八郎により八郎沼ができた。
- ◆昭和8年(1933) 大野村が特別指導村に。  
ドイツ食肉職人、カール・レイモン(今の日ハム子会社)の工場建設。



昭和20年頃のカールレイモン工場

- ◆昭和10年(1935) 千代田郵便局開設。
- ◆昭和14年(1939) 本郷郵便局(今の大野駅前郵便局)開設。
- ◆昭和16年(1941) 大野農学校開校。



開校当時の大野農学校

- ◆昭和17年(1942) 本郷駅が渡島大野駅に改称。
- ◆昭和19年(1944) 学童疎開のため転入生が増えた。



昭和初期の町なみ

- ◆昭和22年(1947) 大野中学校、萩野分校(中学)が開校。
- ◆昭和24年(1949) 文月に「北海道水田発祥の地」碑建立。
- ◆昭和27年(1952) 大野村教育委員会が発足。
- ◆昭和29年(1954) 市渡小学校中山分校が開校。
- ◆昭和32年(1957) 大野村が大野町に。
- ◆昭和33年(1958) 大野橋が更新。
- ◆昭和34年(1959) 千代田式ハウスで野菜の促成栽培成功。
- ◆昭和38年(1963) 大野小の前に公民館開設。
- ◆昭和41年(1966) 学校給食センターによる給食を開始。
- ◆昭和42年(1967) 大野の中心地域の水が枯れだす。
- ◆昭和44年(1969) 南部地区の水道が通水。
- ◆昭和45年(1970) 北部地区の水道が通水。
- ◆昭和46年(1971) 市渡小にプールができた。
- ◆昭和47年(1972) 町役場庁舎更新。
- ◆昭和48年(1973) 大野小と島川小にプールができた。消防署庁舎更新。大野中と萩野中を統合し、大野中新校舎が落成。
- ◆昭和50年(1975) 八郎沼公園の整備が始まる。
- ◆昭和52年(1977) 市渡小の新校舎落成。大野小創立100周年記念式典。
- ◆昭和53年(1978) 島川小の新校舎落成。

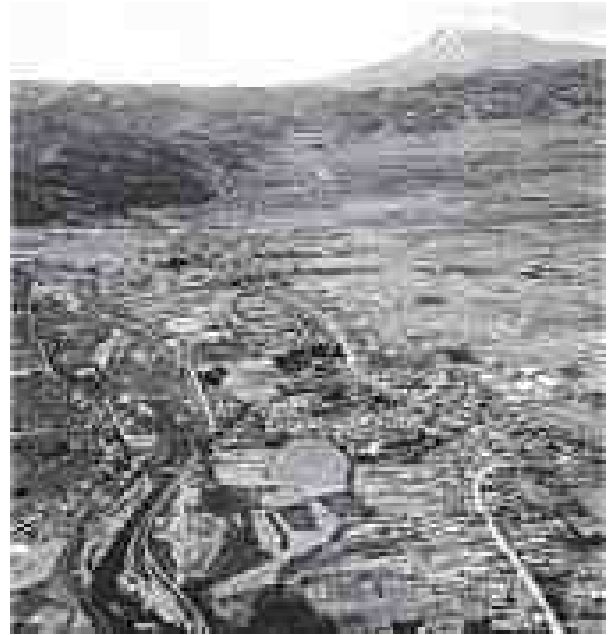
## 大野のあゆみ。。。。。

- ◆昭和55年(1980) 新しい中央公民館が落成。町の木を「オンコ(イチイ)」、町の花を「ツツジ」と定める。
- ◆昭和57年(1982) 市渡小創立100周年記念式典。
- ◆昭和58年(1983) 荻野小の新校舎とグラウンドが落成。スポーツセンター落成。
- ◆昭和59年(1984) 町民グラウンド落成。島川小創立100周年記念式典。
- ◆昭和61年(1986) 町民プール落成。
- ◆昭和63年(1988) 大野中体育館が大規模改造。大野小が大規模改造。
- ◆平成元年(1989) 国体自動車競技のロードレースコースに。
- ◆平成2年(1990) 大野奴が11年ぶりに復活。清水川工業団地の造成開始。
- ◆平成2年(1990) マルメロ ワインが販売開始。八郎沼公園に多目的ホール落成。
- ◆平成4年(1992) 72.3℃の温泉が湧出。本町の一部で下水道が共用開始、水洗化が始まった。健康センター「せせらぎ温泉」開業。ごみ処理施設の環境センターが落成、業務開始。市渡小中山分校が廃校に。
- ◆平成6年(1994) きじひき山キャンプ場にバンガロー開設。渡島大野駅付近が北海道新幹線の新駅に決まる。



キャンプ場

- ◆平成7年(1995) 匠の森研修センターが落成。
- ◆平成8年(1996) 八郎沼パークゴルフ場が落成。少年野球チーム「大野ダイヤ」が全道大会優勝。
- ◆平成10年(1998) 農業振興センターが落成。本町学童保育所開設。
- ◆平成11年(1999) 大野小文月分校が廃校に。市渡学童保育所開設。大野大橋落成。大野幼稚園が市渡に移設され、新園舎落成。



昭和40年代の大野全景

- ◆平成12年(2000) ライスターミナル落成。学校給食センターが更新。
- ◆平成13年(2001) 保健センターが落成。大野川ダムが完工。荻野小創立100周年記念式典。
- ◆平成16年(2004) 上磯町大野町任意合併起用議会設置。
- ◆平成17年(2005) 合併による市の名称が「北斗市」と決定。北海道新幹線建設工事開始。向野浄水場が通水。きじひき高原で北海道植樹祭開催。
- ◆平成18年(2006) 2月1日、上磯町との合併により北斗市となる。

(この記事は北斗市の小学校社会科副読本から引用しました)



新函館北斗駅



## 北斗市のあゆみ。 。 。 。

- 平成15年 7月** 上磯・大野の2町での合併協議入りで合意。
- 12月** 上磯町・大野町で任意協議会設置。
- 平成16年 4月** 上磯町・大野町法定合併協議会を設置。
- 平成17年 2月** 上磯・大野両町が合併協定書に調印。
- 平成18年 2月** 北斗市誕生。
- 3月** 初代北斗市長に海老澤順三氏が就任。
- 6月** 北斗市合併記念式典開催。[北斗市の歌「永遠にあかるく」を初披露]
- 7月** 第1回北斗市夏まつり開催。
- 10月** 第1回北斗市市民植樹祭開催。[きじひき高原]
- 平成19年 4月** 市民憲章および市の木・市の花を制定。
- 11月** 久根別住民センター「く〜みん」完成。
- 12月** 第1次北斗市総合計画策定。[シンボルテーマ「あなたが主役、可能性を未来に」]
- 平成20年 3月** 北海道新幹線新駅周辺整備方針決定。
- 4月** 北斗市南北市街地運行開始。
- 平成21年 7月** 北斗市トマト共同選別施設稼働。
- 8月** 北海道新幹線渡島当別トンネル開通。
- 11月** 函館江差自動車道北斗中央IC～北斗富川IC間開通。
- 平成22年 2月** 北斗市出身アルペンスキー（回転） 佐々木明バンクーバーオリンピック出場。[市民栄誉賞受賞]
- 3月** 第2代北斗市長に高谷寿峰氏就任。
- 5月** 上磯駅前商店街完成。
- 平成23年 3月** 東日本大震災発生。[国道228号通行止め。避難施設に829名避難]
- 4月** 総合運動公園陸上競技場全天候型としてリニューアルオープン。
- 11月** 浜分中学校新校舎完成。
- 平成24年 3月** 函館江差自動車道北斗富川IC～北斗茂辺地IC間開通。
- 平成24年 4月** 北斗市観光元年スタート。
- 北斗市桜回廊開催。[法亀寺、大野川沿いのライトアップ°]
- 江差線（五稜郭～木古内間）第三セクター会社設立による存続決定。  
[後の「道南いさりび鉄道」]



合併記念式典



運行開始した連絡バス





## 北斗市のあゆみ。 。 。 。

- 平成24年 6月** 北海道新幹線札幌延伸決定。
- 7月** 北斗市出身バドミントン選手 佐々木翔 ロンドンオリンピック出場。  
[市民栄誉賞受賞]
- 8月** 新幹線開業ロゴマーク・キャッチフレーズ決定。  
ローマへの道パレード開催。[石別地区]
- 平成25年 6月** 北海道新幹線新駅舎着工。  **ずーしーほっきー**
- 8月** 第1回きじひき高原まつり開催。
- 10月** 市内吹奏楽の4団体そろって全国大会出場の快挙。[久根別小、上磯小、上磯中、上磯吹奏楽団]
- 11月** 北斗市公式キャラクター「ずーしーほっきー」誕生。
- 12月** 茂辺地小中学校新校舎完成。[茂辺地小・中学校が併置校として開校]
- 平成26年 2月** 北斗市出身アルペンスキー（回転） 佐々木明 ソチオリンピック出場。  
[4大会連続出場]
- 5月** 北斗桜回廊の戸切地陣屋跡桜並木をライトアップ。[北斗桜回廊10万人が来場]
- 6月** 北海道新幹線新駅名称「新函館北斗駅」に決定。
- 8月** 新特産品をめざして「峯朗ガキ」養殖事業開始。
- 10月** ごみ破碎処理施設「リサイクリンほくと」完成。 
- 11月** 北斗市郷土資料館が総合分庁舎に移転、リニューアルオープン。  
新青森・新函館北斗間レール締結式。
- 12月** トラピスト修道院並木道を石畳風に改修。  
江差線（五稜郭～木古内間）第三セクター会社「道南いさりび鉄道」に決定。
- 平成27年 2月** 北斗産米「ふっくりんこ」が最高評価の「特A」を獲得。  
北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定。[（H27年度～H31年度）]
- 4月** きじひき高原にパノラマ展望施設オープン。
- 7月** きじひき高原の村山1号線にメロディーロード設置。
- 8月** 全国中学校陸上競技大会 女子100m 全国優勝 町井愛海（浜中2年）。[特別市民栄誉賞]  
全国小学生陸上競技交流大会 男子80mH 全国優勝 町井大城（浜小6年）。[市民栄誉賞]



## 北斗市のあゆみ。。。。。

平成27年 9月 北海道新幹線新函館北斗駅舎完成。北斗市観光交流センター完成

12月 新函館北斗駅の駅前広場完成。

イートイン型直売施設「海鮮焼フィッシャリー」オープン。

平成28年 2月 北海道新幹線試乗会開催。

3月 北海道新幹線開業。北斗おもてなしイベントの開催。

北海道新幹線並びに道南いさりび鉄道開業祝賀会開催。

北斗市観光交流センター オープン。

5月 新函館北斗駅北口「田んぼアート」作成。

7月 北斗星お披露目セレモニー開催。（北斗の星に願いをプロジェクト推進委員会） [茂辺地中学校跡地]

12月 トラピスト修道院並木道のライトアップ開始。

平成29年 3月 北斗市観光交流センター別館「ほっくる」完成。

函館港幹線臨港道路湾岸線開通。

北斗市の地酒「北斗発祥」誕生。

6月 茂辺地地区創生会議 北斗星広場  
「北斗軒」オープン。

12月 第2代高谷寿峰北斗市長ご逝去。

平成30年 1月 第3代北斗市長に池田達雄氏就任。

3月 第2次北斗市総合計画策定、シンボルテーマ「ほっとする・くらしがある・ともにすすめるまちづくり」。

市民総ぐるみによるシティプロモーションの展開。

7月 全日本中学校陸上競技選手権大会男子200m 全国優勝 町井大城  
(浜中3年) [市民栄誉賞]

11月 第1回北斗市子ども議会開催。

12月 大野農高相撲部 秋山将輝君 八角部屋に入門へ。

北斗消防署北分署新庁舎完成。

平成31年 3月 北海道新幹線・道南いさりび鉄道 開業3周年記念イベント開催

令和元年 5月 サッポロビール(株)「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」開設  
記念植樹 [ワイン用ブドウ栽培 場所：トラピスト修道院牧草地]



北斗軒

(この記事は北斗市誕生10周年記念資料から引用しました)

# 東京北斗会のホームページ

<http://yuksoto.sakura.ne.jp/TokyoHokutoKai.html>



**東京北斗会**

「[当会の予定](#)」 | [過去の行事](#) | [会則](#) | [役員](#) | [入会申込](#) | [北斗市のホームページ](#)  
| [会報](#) | [広報](#) | [ニュース](#) | [写真](#) | [会員などの名前](#) | [会社](#) | [コラム](#) | [会員名簿](#) |  
| [北斗市側の会の歴史](#) | [会長の挨拶](#) |

[きじひき高原](#) | [法蔵寺のひだれ権](#) | [日まびた寺修道院](#)

「東京北斗会」は、東京都およびその近郊に住む北海道北斗市（旧上磯町と日大野町）出身者および関係者による「ふるさと会」です。

会員相互の交流と絆を固めることを目的として、総会、懇親会、北斗市への協力活動などを行っています。

2016年3月26日に開業した北海道新幹線の「新函館北斗駅」は、ふるさと北函道 [北斗市](#)にあります。 [北斗市観光ガイド](#) | [北斗市観光情報](#)

お問合せは [こちら](#)へ

## 電子メールアドレスを登録してください

大事な  
お願い

電子メールアドレスを登録していただければ、行事などの連絡を直接電子メールで送信させていただきます。ご希望の方は、次の電子メールアドレスにその旨をメールしてください。

[yuksoto@gmail.com](mailto:yuksoto@gmail.com) 受取りは「事務局 外山」です。



# 東京北斗会 会員名簿

2019年9月20日現在

卒業または関係する小学校別に分けて掲載しています。

## 石 別

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
市川 雅夫		東京都三鷹市	中島 利恵子	菊地	埼玉県朝霞市
岡崎 千聖	龍崎	神奈川県横浜市	野左近 康蔵		埼玉県入間市
勝山 康二		東京都世田谷区	松田 明美		東京都狛江市
酒井 秀人		東京都板橋区	松田 洋一		千葉県四街道市
佐々木 定信		東京都世田谷区	矢澤 弥生	佐藤	東京都国立市
染木 トシ	高橋	東京都北区	山川 毅		北海道北斗市
高橋 昌三		東京都新宿区	山田 道夫		東京都北区
高山 義広		埼玉県さいたま市	龍崎 千遙		東京都府中市

## 沖川・島川

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
木村 稔		神奈川県相模原市	出口 正幸		千葉県我孫子市
高橋 牧子	山本	神奈川県横浜市	花木 瞳	斎藤	千葉県柏市
竹田 陽一		神奈川県横浜市	宮崎 和子	竹田	東京都江東区

## 峩 朗

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
麻生 正枝	若松	東京都中央区	塩川 みつえ	原田	東京都北区
石川 誠一		千葉県船橋市	武井 満野子	根津	東京都墨田区
岩山 真一		東京都北区	飛田 幸廣		埼玉県秩父市
大橋 英一		埼玉県比企郡	中野 忠彦		東京都世田谷区
簡 和弘		埼玉県さいたま市	松井 文夫		埼玉県比企郡
甲谷 光孝		東京都杉並区	吉田 牧子	佐藤	神奈川県座間市

## 大野・市渡

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
大塚 幸枝	舩甚	千葉県流山市	寺田 和彦		東京都中野区
小笠原 昇		神奈川県横浜市	寺田 光世		東京都調布市
長川 絵美		東京都墨田区	寺田 絹代		東京都調布市
澤村 和也		神奈川県横浜市	平川 セイ子	寺田	埼玉県さいたま市
鈴木 一弘		東京都江戸川区	米田 正彦		東京都福生市
土屋 治		千葉県千葉市			



# 東京北斗会 会員名簿

2019年9月20日現在

卒業または関係する小学校別に分けて掲載しています。

## 上磯・久根別

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
會澤 宣昭		東京都西東京市	佐藤 茂雄		東京都板橋区
青木 保		東京都練馬区	清水目 憲司		茨城県日立市
青木 江里子	川浪	東京都練馬区	清水目 千枝子		茨城県日立市
東 正則		東京都杉並区	鈴木 将史		千葉県船橋市
池田 均		東京都荒川区	相馬 滋		神奈川県横須賀市
石本 宣章		神奈川県愛甲郡	袖田 正子	木村	東京都港区
板谷 勲		東京都八王子市	外山 幸雄		神奈川県茅ヶ崎市
伊藤 十六		千葉県柏市	高井 信一	野呂	神奈川県川崎市
伊藤 雪雄		埼玉県春日部市	館 文雄		神奈川県秦野市
井上 稔		神奈川県鎌倉市	中村 晶子	田中	東京都新宿区
井上 豊		静岡県三島市	中村 優美子	中西	東京都西多摩郡
岩本 正則		神奈川県横浜市	馬場 幸雄		東京都杉並区
大島 大介		東京都葛飾区	平田 新一		千葉県千葉市
小田嶋 幸三		千葉県船橋市	福田 恭平		東京都中央区
金谷 忠勝		東京都調布市	福原 孝久		千葉県船橋市
川上 喜代	福田	東京都青梅市	福原 京子		千葉県船橋市
木谷 諭		千葉県千葉市	星川 傑		東京都板橋区
工藤 良悦		埼玉県さいたま市	本間 美耶子	長崎	東京都墨田区
黒川 リツ子	石田	茨城県結城市	松田 有司		神奈川県横浜市
黒田 博		千葉県佐倉市	宮崎 里志		埼玉県幸手市
桑満 優子		神奈川県横浜市	宮崎 俊昭		神奈川県横須賀市
郷内 繁		東京都港区	宮崎 紀夫		千葉県浦安市
小島 征子		東京都世田谷区	村上 千鶴子	郷内	東京都練馬区
木幡 恒		千葉県浦安市	村元 誠		東京都渋谷区
小松 二郎		東京都杉並区	吉泉 幸子	柳谷	神奈川県座間市
小松 直樹		神奈川県横浜市	山本 善正		千葉県千葉市
斎藤 道子		神奈川県横浜市			

## 浜 分

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
小笠原 雅則		山梨県中央市	成田 一征		東京都葛飾区
岡部 カツ子	佐藤	千葉県大網白里市	萩森 京子	小倉	埼玉県さいたま市
小埜寺 直巳		茨城県竜ヶ崎市	早川 敬子	田村	愛知県名古屋市
北村 三紗子	堀内	千葉県野田市	林 猛		東京都大田区
小池 祐子	小倉	群馬県利根郡	藤田 幸	佐藤	東京都杉並区
小棚木 透		千葉県香取市	細川 国勝	堀内	神奈川県海老名市
立花 栄子	成田	埼玉県春日部市	山本 恵理	上井	東京都世田谷区
谷杉 栄策		神奈川県相模原市			



# 東京北斗会 会員名簿

2019年9月20日現在

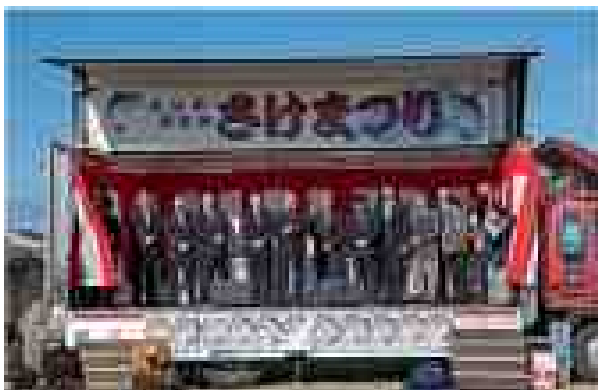
卒業または関係する小学校別に分けて掲載しています。

## 谷 川

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
岩村 昌治		東京都江戸川区	長澤 久子	高橋	千葉県習志野市
大橋 文子	安田	埼玉県所沢市	永塚 津江子	石崎	神奈川県横浜市
斉藤 清信		神奈川県横浜市	長谷川 隆治		東京都大田区
坂入 登美子	下国	東京都北区	廣田 葉子	斉藤	千葉県市原市
佐藤 則道		東京都中野区	廣田 明子		千葉県市原市
高橋 博		東京都北区	藤井 哲哉		東京都豊島区
塚本 睦子		千葉県柏市	藤谷 幸子	高橋	千葉県松戸市
豊島 敏子	菅藤	東京都渋谷区	和田 通子	三浦	北海道旭川市

## 茂 辺 地

氏名	旧姓	住所	氏名	旧姓	住所
青戸 輝	又地	神奈川県茅ヶ崎市	佐野 誠一		神奈川県横浜市
池田 喜久雄		千葉県千葉市	高橋 昭則		埼玉県東松山市
池田 良穂		千葉県船橋市	高橋 ミエ子	阿部	東京都葛飾区
石橋 一利		神奈川県川崎市	高橋 幸夫		埼玉県久喜市
岩谷 潤一		神奈川県相模原市	高橋 冷子	佐藤	千葉県我孫子市
内堀 幸夫		東京都千代田区	田中 正昭		北海道北斗市
大野 洋子	佐々木	東京都調布市	辻田 康治		東京都練馬区
小川 厚子	木野	茨城県北相馬郡	辻田 満子	中川	東京都練馬区
加藤 和子	吉田	北海道函館市	堤 幸子	高田	千葉県大網白里市
北林 志津江	坂本	東京都荒川区	中田 真樹子	小野寺	千葉県柏市
日下 浩		東京都町田市	袴田 隆雄		東京都葛飾区
久保 知子	星野	千葉県市川市	又地 敬司		埼玉県春日部市
坂井 双葉	佐藤	埼玉県さいたま市	棟方 美千子	畑中	埼玉県さいたま市
坂本 東洋志		埼玉県三郷市	山崎 弘子	池田	神奈川県大和市
佐藤 金也		神奈川県横浜市	横田 元子	野口	千葉県船橋市
佐藤 たい子	峰尾	茨城県日立市	吉川 静枝	富高	東京都江東区



さけまつり

石ぎきホール 北斗 石ぎきホール 七重丸

**株式会社 石崎公益社**

代表取締役 石崎 幸男

住 所 北斗市飯生1-9-8  
 TEL : 0138-73-3393  
 FAX : 0138-73-8020  
<http://www.sakai-kyosei.com/>

## 「東京北斗会」 役員名簿

役 職	氏 名	出身小学校	役 職	氏 名	出身小学校
会 長	佐藤 金也	茂辺地	幹 事	米田 正彦	大 野
副 会 長	坂本 東洋志	茂辺地	幹 事	松田 有司	上 磯
副 会 長	佐藤 則道	谷 川	幹 事	龍崎 千遙	石 別
事務局長	宮崎 里志	上 磯	幹 事	星川 傑	上 磯
会計監査	簡 和弘	峯 朗	事 務 局	外山 幸雄	上 磯
会 計	谷杉 栄策	浜 分	事 務 局	池田 喜久雄	茂辺地
会 計	花木 瞳	沖 川	顧 問	池田 達雄	北斗市長
幹 事	高橋 昌三	石 別	顧 問	郷内 繁	上 磯
幹 事	武井 満野子	峯 朗	相 談 役	金谷 忠勝	上 磯
幹 事	加藤 和子	茂辺地	相 談 役	小松 直樹	上 磯
幹 事	長澤 久子	谷 川			

## 「東京北斗会」 会則

1. 本会は「東京北斗会」と称し、事務所を会長宅（会長宅住所を記載）に置く。
2. 本会は東京都及び近郊在住の北海道北斗市出身者並びに関係者等をもって組織する。
3. 本会は会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限りない発展に寄与する。
4. 本会は前項の目的を達成するために次の事業を行う。
  - (1) 集会の開催 (2) 会報の発行
  - (3) 会員名簿の作成
  - (4) その他本会の目的達成に必要な行事
5. 本会に次の役員を置く。
 

会長	1名	副会長	若干名
事務局長	1名	事務局	若干名
会計監査	1名	会計	2名
幹事	若干名		
6. 会長及び副会長、会計監査は幹事会において選出し、総会の承認を得る。事務局長・事務局・会計並びに幹事は会長が委嘱する。
7. 役員の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。
8. 集会は次の5種とする。
  - (1) 総会 (2) 臨時総会 (3) 懇親会
  - (4) 役員会 (5) 幹事会
9. 総会は毎年1回開催し、予算の審議並びに前年度の会務及び決算報告を行い、併せて重要事項を審議する。
10. 本会の経費は会費及び寄付金をもって充てる。
  - (1) 年会費は一人2,000円とする。
  - (2) 夫婦会員及び同一住所に住んでいる「親子・兄弟姉妹」の会員は一人分を徴収する。
11. 本会の会計年度は9月1日から8月31日迄とする。
12. 本会に新規入会するものは、所定の申込書に必要事項を記載し会長の承認を得るものとする。
13. 本会則は総会の決議により変更する事が出来る。
14. 本会則は平成7年10月1日より実施する。
15. 本会則は平成15年10月18日より改訂、実施する。
16. 本会則は平成20年10月18日より改訂、実施する。
17. 本会則は平成22年10月17日より改訂、実施する。
18. 本会則は平成24年10月27日より改訂、実施する。
19. 本会則は平成27年10月24日より改訂、実施する。
20. 本会則は平成29年10月21日より改訂、実施する。

以上

# 東京北斗会 会報 第8号

2019年10月19日 発行

(編集後記) この会報「磯の香」は初代会長の相馬先生と小田島副会長が音頭を取って発刊しました。

以後、数年間は毎年刊行していましたが、平成16年(2004年)の創立10年からは5年毎に刊行して来ましたが、今回は、偶然にも令和元年の幕開けが創立25年の記念すべき節目に当たり、記念誌としての第8号の発刊となりましたのでお届け致します。

特筆すべき内容は、先ずは、表紙の素晴らしい写真は、北斗市職員が好天の視界の良い日を狙って函館山から撮ったものです。

それから、北斗市役所のご協力により「上磯のあゆみ」「大野のあゆみ」そして「北斗市のあゆみ」として、歴史の刻みを掲載することができました。そして、当会の創立時からの25年間の歩みも調べて見ましたのでご高覧下さい。

刊行にあたり、池田市長を始めとする北斗市の関係団体からのお祝い状や郷土からの便りなどを提供していただき、更には各企業様からの広告協賛があり、紙面を賑やかに飾ることができましたこと、厚くお礼を申し上げます。

会報の発行は、会員の情報の共有・共感・一体感などに大切な手段であり、この「磯の香」が永遠に続くことを願います。

人生100年の時代に入りました今日、会員の皆様が超高齢となっても毎年の総会・各種行事などに参加できるようにいつまでも健康で心豊かな生活を送ることをお祈りしています。

この会報は、総会に参加して頂いた会員と年会費を納入された方々だけに配布しております。会の存続と資金確保のためにも会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

編集委員長 坂本東洋志